

4. 調査結果

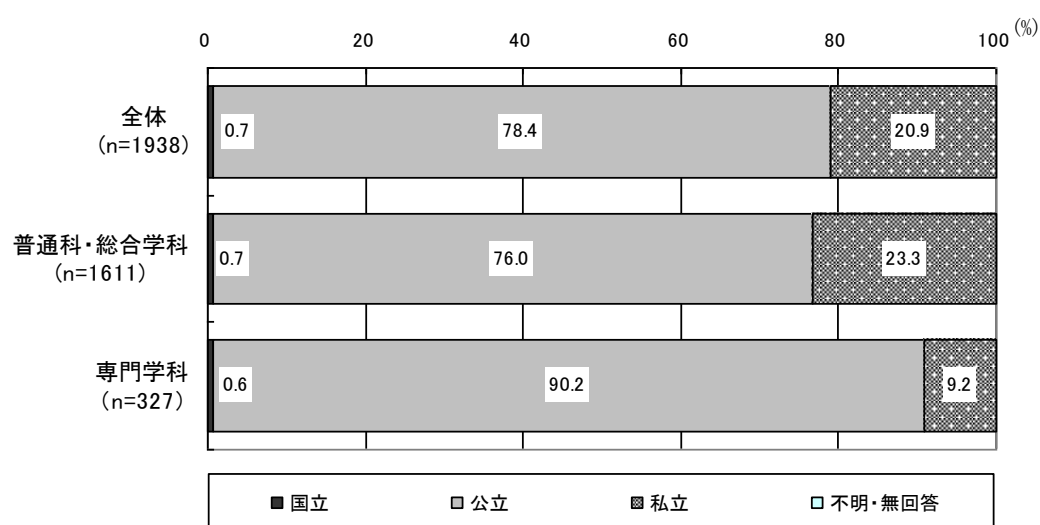
4.1. 回答者の基本属性

「回答者の基本情報」では、回答者の基本属性だけでなく、教員歴や出身学部や、所属している学校について質問している。

4.1.1. 学校区分

全体では、「国立」0.7%、「公立」78.4%、「私立」20.9%であった。「普通科・総合学科」「専門学科」別では、「専門学科」の方が、「普通科・総合学科」よりも「公立」が14.2ポイント高く、「私立」が14.1ポイント低い。

図表 II.4.1.1-1 設問 I-1. 勤務校の学校区分



4. 1. 2. 勤務校所在地

図表 II. 4. 1. 2-1 設問 I-2. 勤務校所在地

(人)

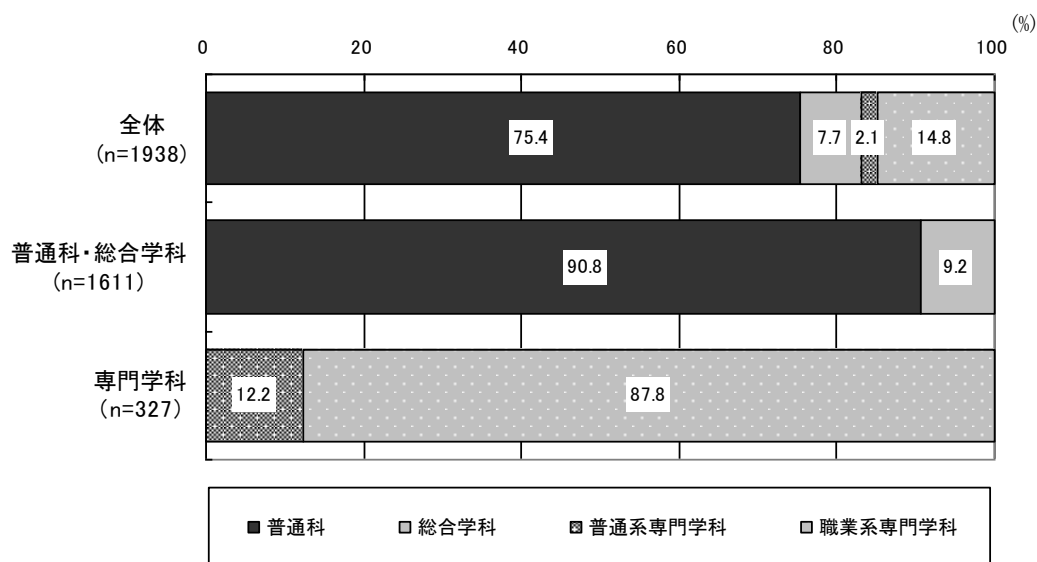
		全体	I-4.学科	
			普通科 ・総合学科	専門学科
n=		1938	1611	327
北海道・東北	北海道	136	114	22
	青森県	50	38	12
	岩手県	47	31	16
	宮城県	38	33	5
	秋田県	30	26	4
	山形県	27	23	4
	福島県	46	35	11
関東	茨城県	79	75	4
	栃木県	27	25	2
	群馬県	29	21	8
	埼玉県	58	58	
	東京都	84	77	7
	千葉県	62	56	6
	神奈川県	68	63	5
中部	新潟県	50	40	10
	富山県	20	15	5
	石川県	33	28	5
	福井県	13	10	3
	山梨県	26	23	3
	長野県	56	48	8
	岐阜県	49	29	20
	静岡県	74	63	11
	愛知県	65	57	8
	三重県	28	23	5
近畿	滋賀県	25	23	2
	京都府	29	26	3
	大阪府	69	63	6
	兵庫県	81	62	19
	奈良県	15	12	3
	和歌山県	12	8	4
中国	鳥取県	12	8	4
	島根県	19	14	5
	岡山県	32	22	10
	広島県	35	34	1
	山口県	34	30	4
四国	徳島県	26	18	8
	香川県	15	11	4
	愛媛県	34	33	1
	高知県	25	22	3
九州	福岡県	55	48	7
	佐賀県	15	11	4
	長崎県	57	49	8
	熊本県	38	25	13
	大分県	24	14	10
	宮崎県	30	19	11
	鹿児島県	36	24	12
	沖縄県	25	24	1
不明・無回答		0	0	0

4.1.3. 学科区分

全体では、「普通科」75.4%、「総合学科」7.7%で、あわせて「普通科・総合学科」は83.1%となる。
「普通系専門学科」2.1%、「職業系専門学科」14.8%で、「専門学科」は16.9%となる。

学科別で見ると、「普通科・総合学科」における「普通科」が占める割合は90.8%、「専門学科」における「職業系専門学科」が占める割合は87.8%であった。

図表 Ⅱ.4.1.3-1 設問Ⅰ-4.勤務校の学科

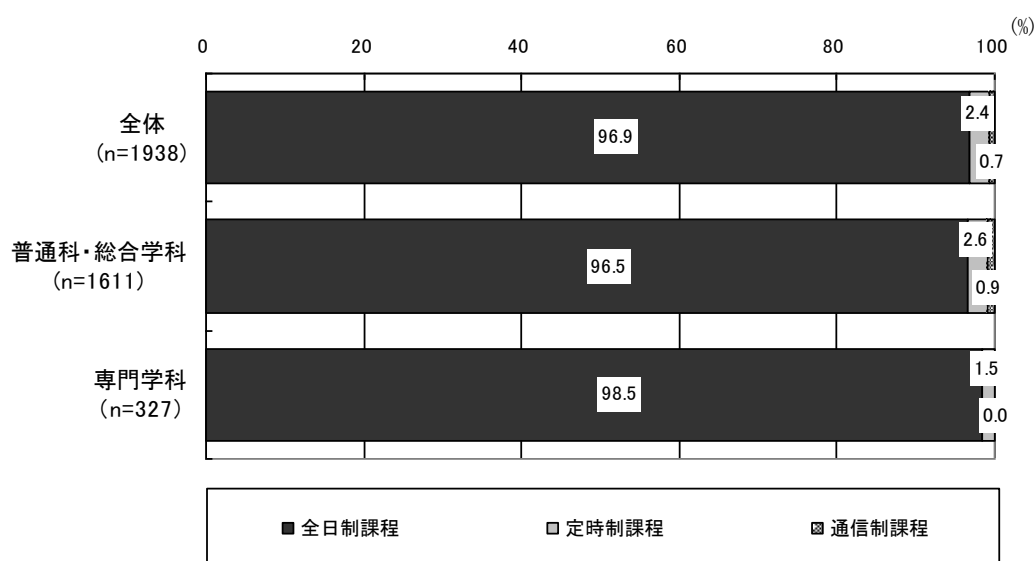


4.1.4. 担当教育課程

全体では、「全日制課程」が96.9%でほとんどを占めている。

学科別で見ても、「普通科・総合学科」で「全日制課程」は96.5%、「専門学科」は98.5%で、ほとんどが「全日制課程」であった。

図表 Ⅱ.4.1.4-1 設問Ⅰ-5.担当授業の教育課程

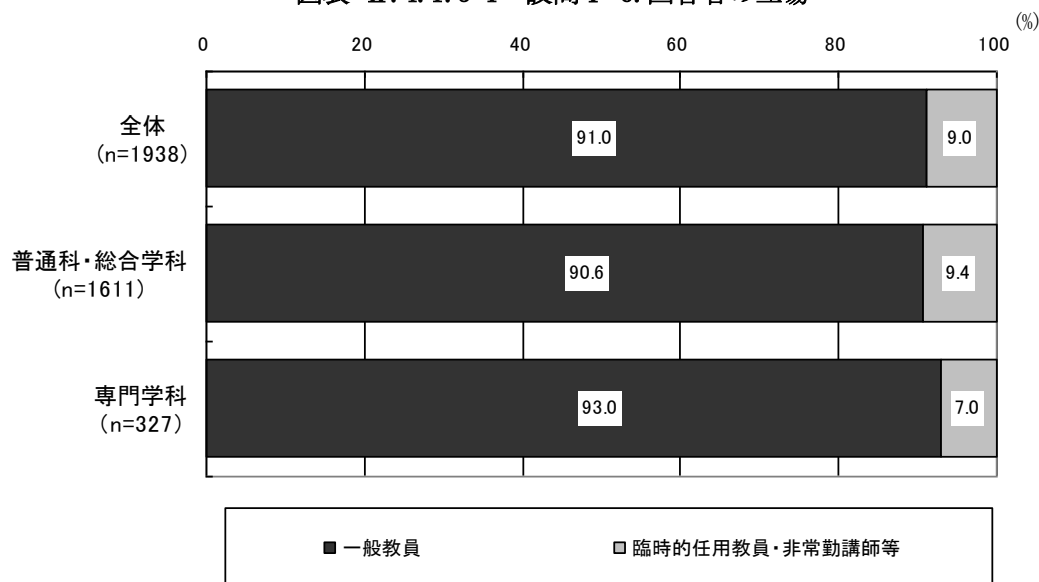


4.1.5. 立場（一般教員と臨時的任用教員・非常勤講師）

全体では、「一般教員」が91.0%でほとんどを占めている。

学科別で見ても、「普通科・総合学科」で「一般教員」は90.6%、「専門学科」は93.0%で、ほとんどが「一般教員」であった。

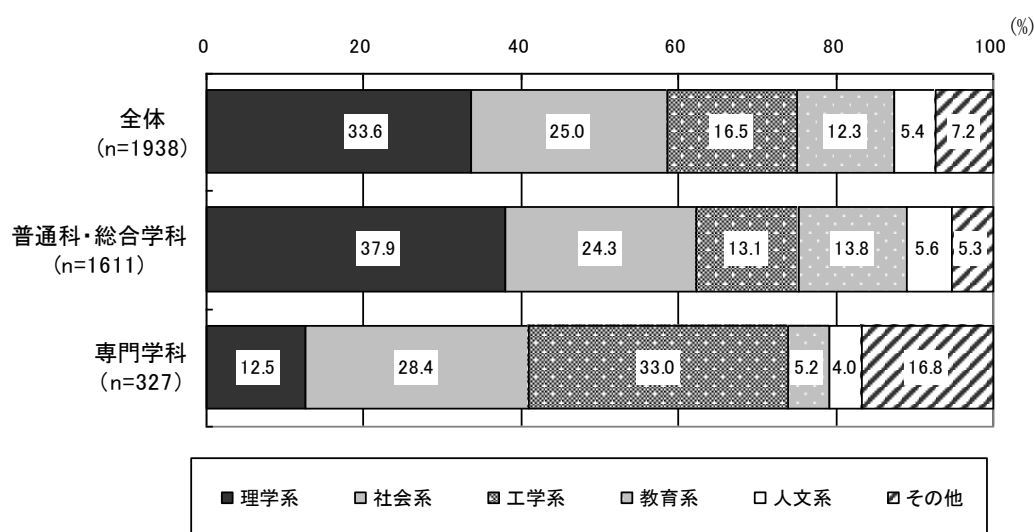
図表 II.4.1.5-1 設問 I-6. 回答者の立場



4.1.6. 出身学部

全体では、「数学科」などが含まれる「理学系」が33.6%と最も高い。次いで「経済学科」「経営学科」「商学科」が含まれる「社会系」が25.0%と続く。学科別で見ると、「専門学科」は「普通科・総合学科」と比べて「社会系」「工学系」が多く、「理学系」が少ない。また「専門学科」は「その他」と回答したものが多く、具体的には「農学系」「水産系」「家政系」が比較的多く見られた。

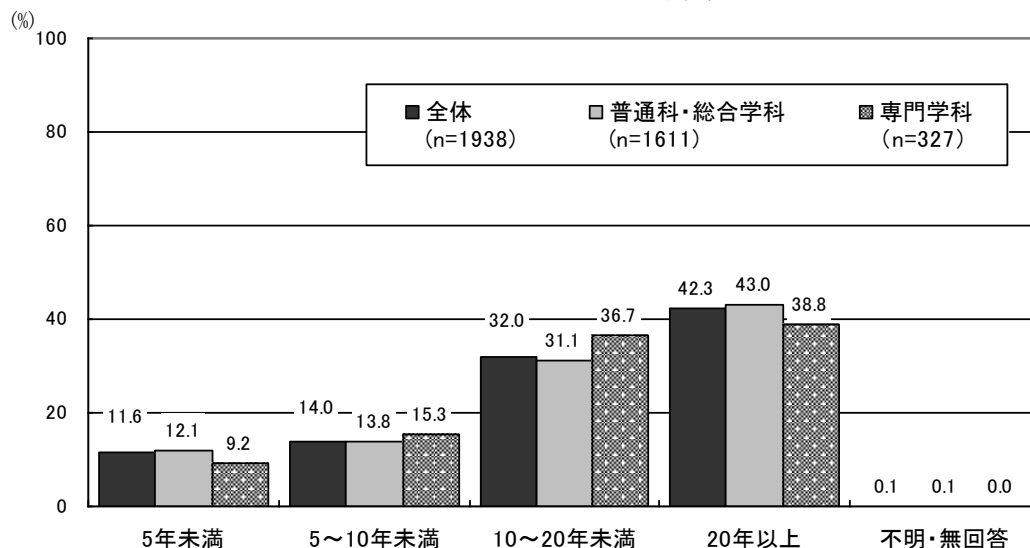
図表 II.4.1.6-1 設問 I-7. 回答者の出身学部



4.1.7. 教員歴と教科「情報」指導歴

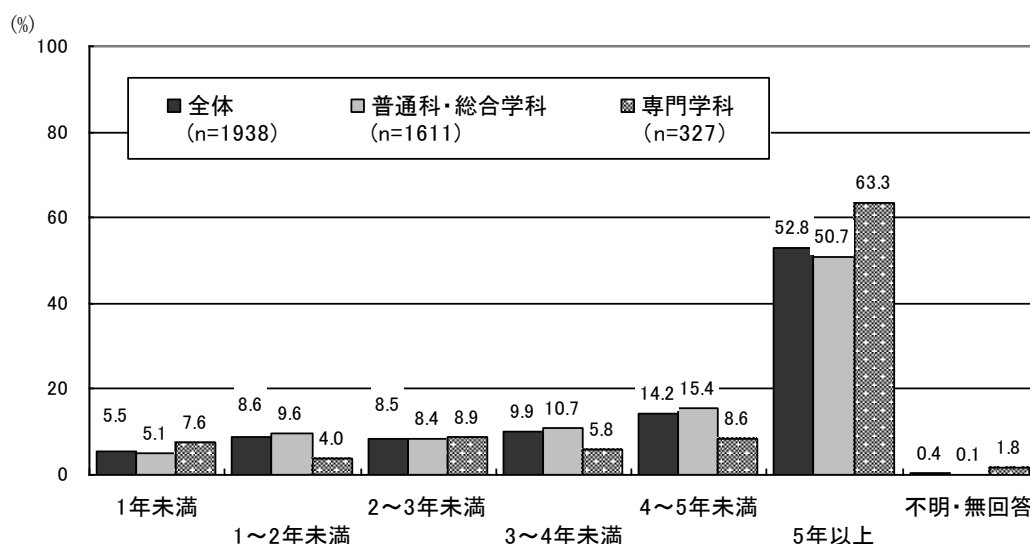
全体では「20年以上」42.3%、「10年以上～20年未満」32.0%で、全体の70%以上が教員歴10年以上であった。学科別に見ても、この傾向に大きな差は見られない。

図表 II.4.1.7-1 設問 I-8. 教員歴



全体での教科「情報」の指導歴は、「5年以上」が52.8%と最も高い。教科「情報」が義務化されたのは2003年度からで調査実施時点で5年が経過している。現在の教員のおよそ半数が、義務化された時から情報を指導しているといえる。学科別で見ると「専門学科」の教員のほうが、「普通科・総合学科」より、「5年以上」が10ポイント以上高く63.3%であった。

図表 II.4.1.7-2 設問 I-9. 教科「情報」指導歴



教員歴と教科「情報」の指導歴を比較すると、教員歴が「20年以上」で、教科「情報」の指導歴が「5年以上」の教員が28.8%と最も高い。

図表 II. 4. 1. 7-3 設問 I-8. 教員歴 設問 I-9. 教科「情報」指導歴 との関係

(%) (n=1938)

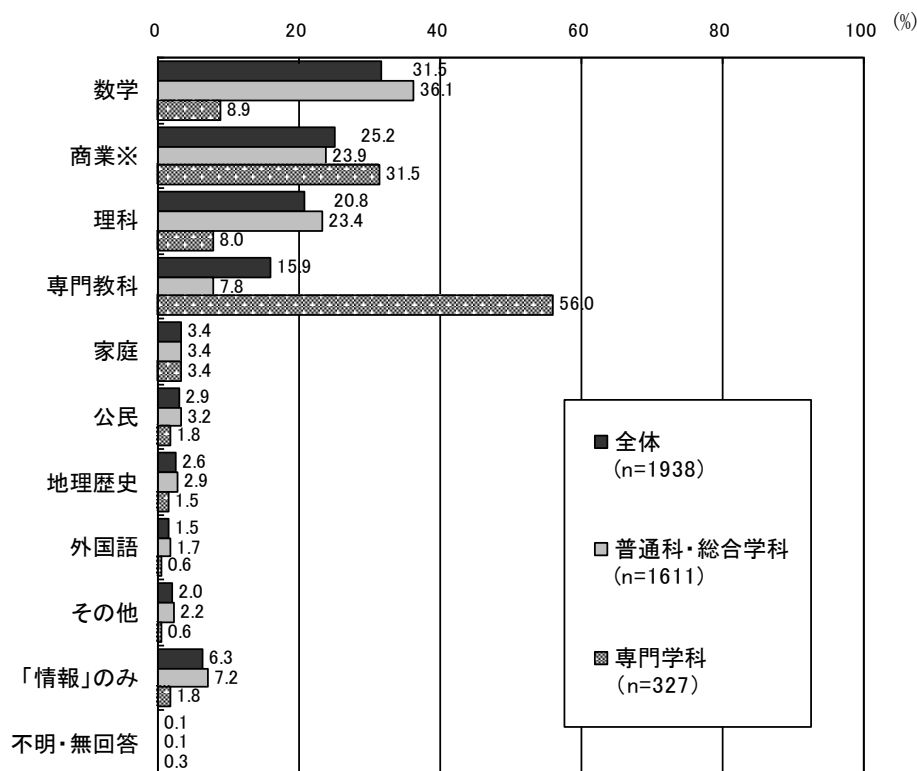
		「情報」指導歴							計
		1年未満	1～2年未満	2～3年未満	3～4年未満	4～5年未満	5年以上	不明・無回答	
教員歴	5年未満	2.3	3.6	2.3	1.7	1.8	0.0	0.0	11.6
	5～10年未満	0.7	1.4	1.8	2.1	2.3	5.5	0.2	14.0
	10～20年未満	1.5	1.8	2.3	3.0	4.9	18.5	0.1	32.0
	20年以上	1.0	1.8	2.1	3.1	5.3	28.8	0.1	42.3
	不明・無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1
計		5.5	8.6	8.5	9.9	14.2	52.8	0.4	100.0

4. 1. 8. 「情報」以外に担当していた教科

「情報」以外に担当していた教科は、全体では 31. 5%で「数学」が最も高い。次いで「専門教科」より再コーディングされた「商業」、「理科」と続く。

学科別で見ると、「普通科・総合学科」では、「数学」は 36. 1%、次いで「理科」は 23. 4%であった。「専門学科」は、「専門教科」が最も高く、「専門教科」とアンケート回収後「専門教科」から別途集計した「商業」をあわせると 80%以上になる。これは「工業」など、他科目での代替が多いことによると推測される。

図表 II. 4. 1. 8-1 設問 I-10. 教科「情報」以外の担当教科



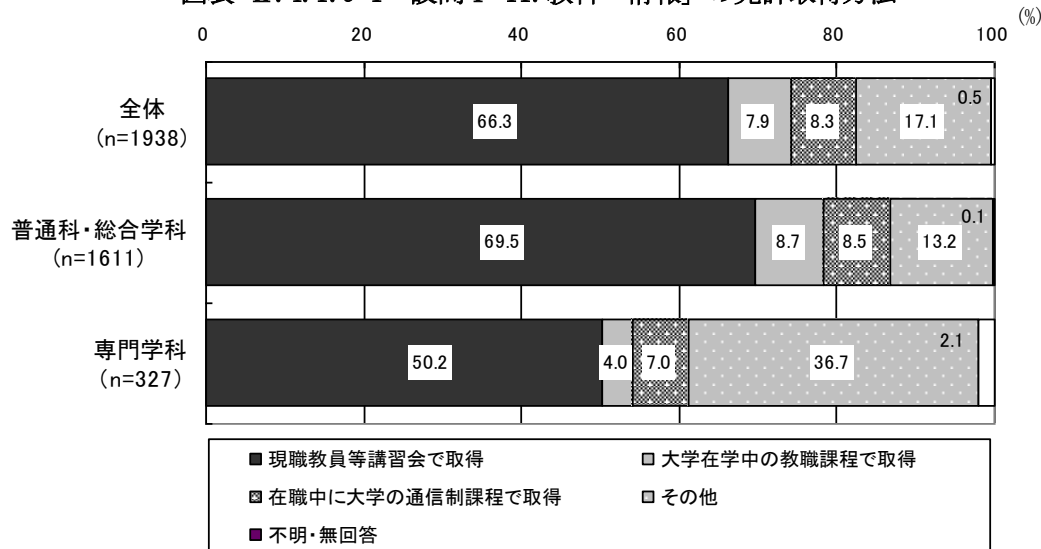
※「商業」は専門教科から再コーディングした

4.1.9. 教科「情報」免許取得方法

全体では「現職教員等講習会で取得」が最も高く 66.3%であった。他の方法で免許を取得した教員は少なく、「教員歴 5 年未満」の回答者が少ないことも合わせ、回答者の多くは教科「情報」が義務化された 2003 年度以降、継続して教科「情報」の授業を担当している様子が伺える。

学科別でも「普通科・総合学科」では「現職教員等講習会で取得」が最も高く 69.5%となる。「専門学科」でも最も高いのは「普通科・総合学科」と同じ「現職教員等講習会で取得」であるが、50.2%と「普通科・総合学科」よりもポイントは低い。また「その他」が 36.7%と「普通科・総合学科」より 20 ポイント以上高い。

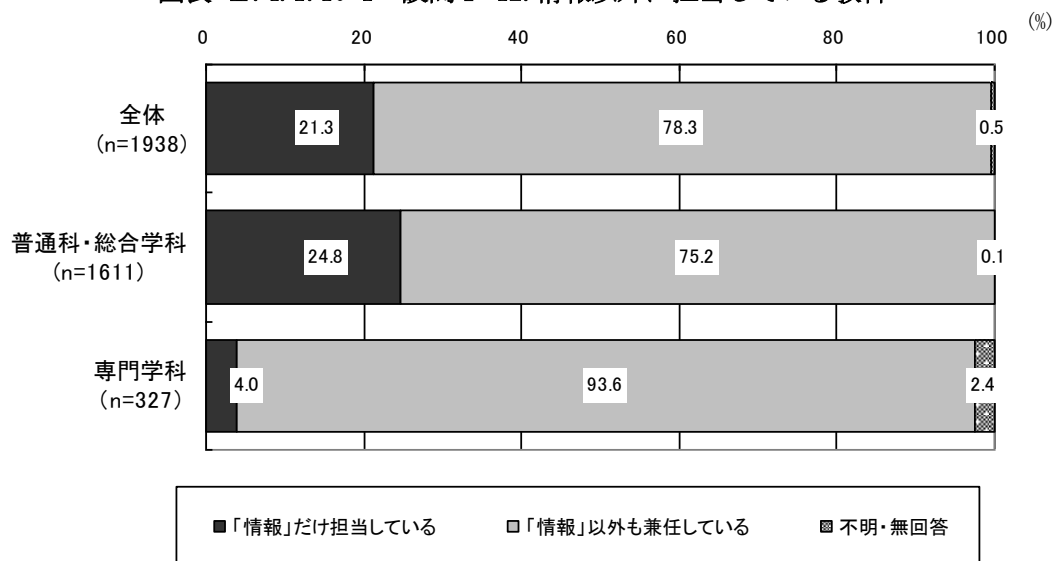
図表 II.4.1.9-1 設問 I-11. 教科「情報」の免許取得方法



4.1.10. 情報以外の担当教科

全体で 78.3%が「『情報』以外にも兼任している」と回答している。学科別では「普通科・総合学科」よりも「専門学科」で兼任率が高く、93.6%が「兼任している」と回答している。これは「専門学科」の教員が他科目からの代替で情報の授業を行っていることが多いためと推測される。

図表 II.4.1.10-1 設問 I-12. 情報以外に担当している教科



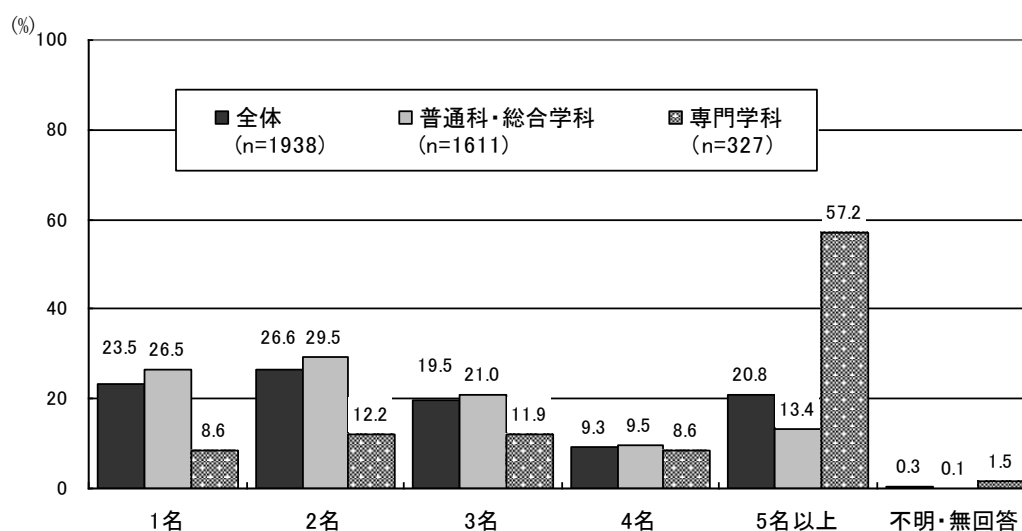
4.1.11. 勤務校における「情報」担当教員数

所属している学校の教科「情報」担当の教員数は全体では「2名」が26.6%と最も高い。次いで「1名」が23.5%であった。あわせて50.1%であり、およそ半数の回答者が「1名」ないし「2名」と回答していることになる。

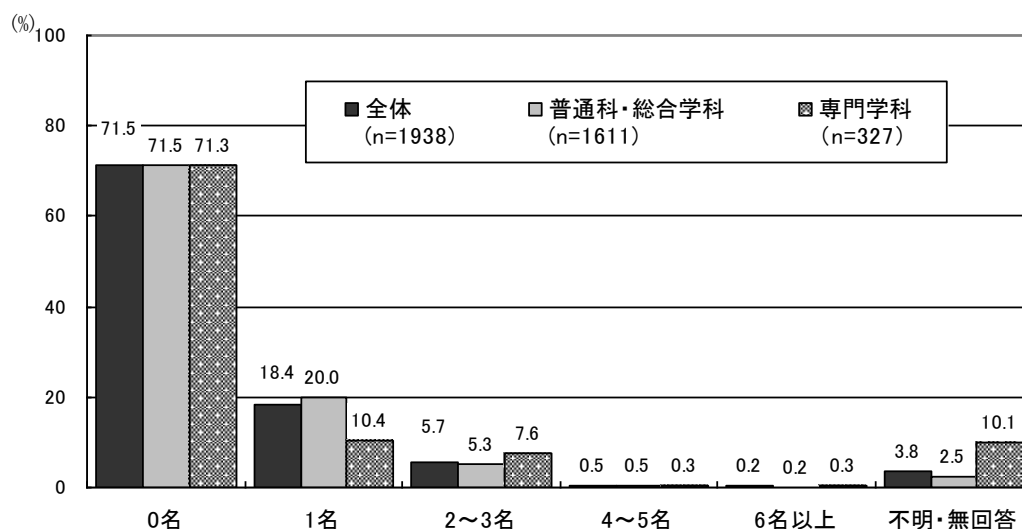
学科別で見ると「普通科・総合学科」では「2名」が29.5%、「1名」が26.5%であった。一方「専門学科」は「5名以上」が57.2%と最も高い。これは既存の情報関連の専門科目で代替しているため、教員数が多くなったものと推測される。

非常勤教員数は、全体で「0名」が71.5%であった。学科別では「普通科・総合学科」では71.5%、「専門学科」では71.3%で、ともに「0名」が最も大きい。

図表 II.4.1.11-1 設問 I-13 1)勤務校の教科「情報」教員数



図表 II.4.1.11-2 設問 I-13 2)勤務校の教科「情報」非常勤教員数



4.2. 教科「情報」の授業について

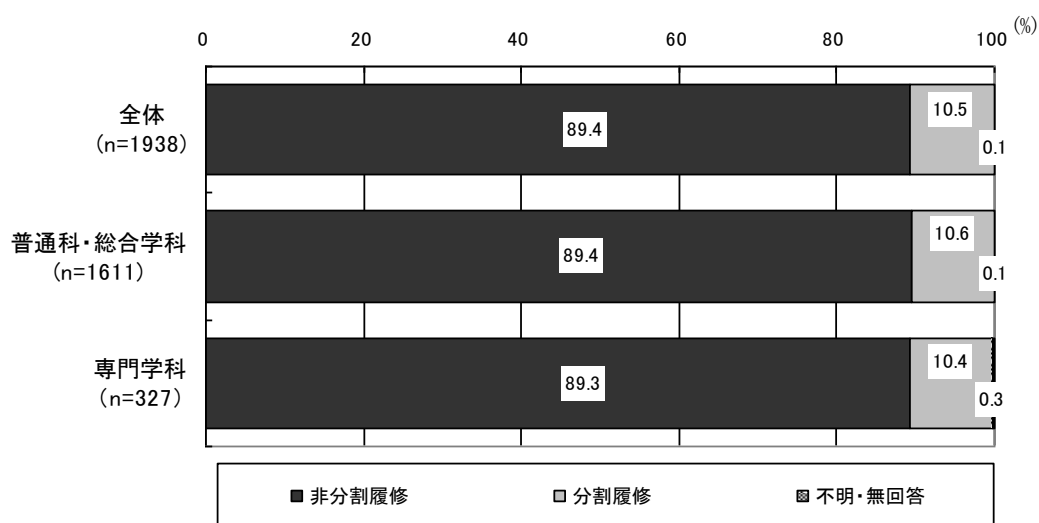
教科「情報」の授業については、各学校でどのような履修形態・内容で開講されているのか、各授業内容について回答者（＝教員）自身はどのように考えているかを質問している。

4.2.1. 開講状況

学校全体として、教科「情報」が何年次に開講されているのか、またそれが何単位に該当するかなどを質問した。

履修形態として、複数年次で受講する「分割履修」の割合を確認したところ、学科を問わずおよそ90%が、「非分割履修（学年ごとに開講）」であった。

図表 II.4.2.1-1 設問II-1. 分割履修の有無



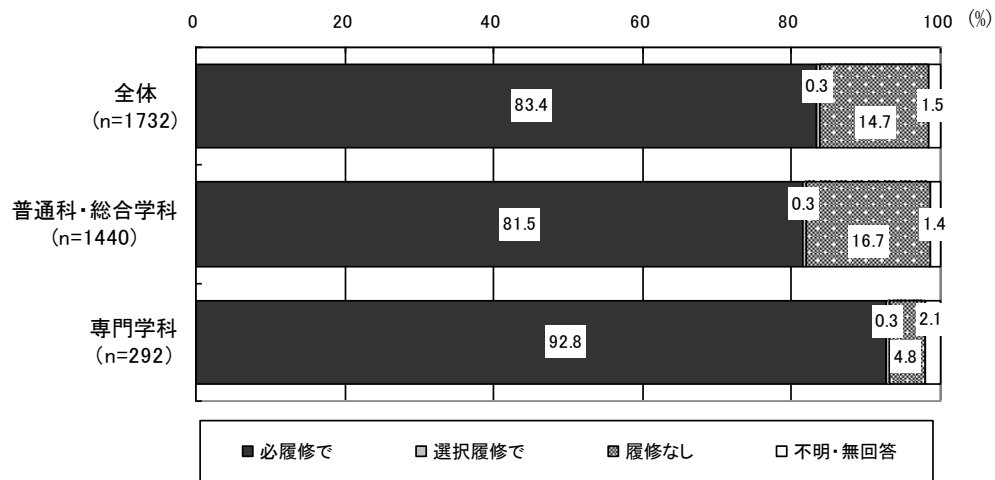
4.2.2. 履修形態

授業形態で、分割履修を行っているのは全体のおよそ10%であった。各年次では非分割履修形態のうち80%以上が1年次に開講している。2年次・3年次で開講状況は30%を下回る。履修内容は、「普通科・総合学科」では、「情報A」が多く、特に1年次に開講している科目のうち、およそ3/4が「情報A」と回答している。年次が上がるほど「情報A」以外の科目が徐々に増え、3年次では「情報A」は26.1%、「情報B」は24.6%、「情報C」は31.9%となる。全ての年次において「情報B」が最も低い。1年次に必修で「情報A」の授業を行う。学校によっては3年次に選択科目として「情報C」を行う学校が多いようである。

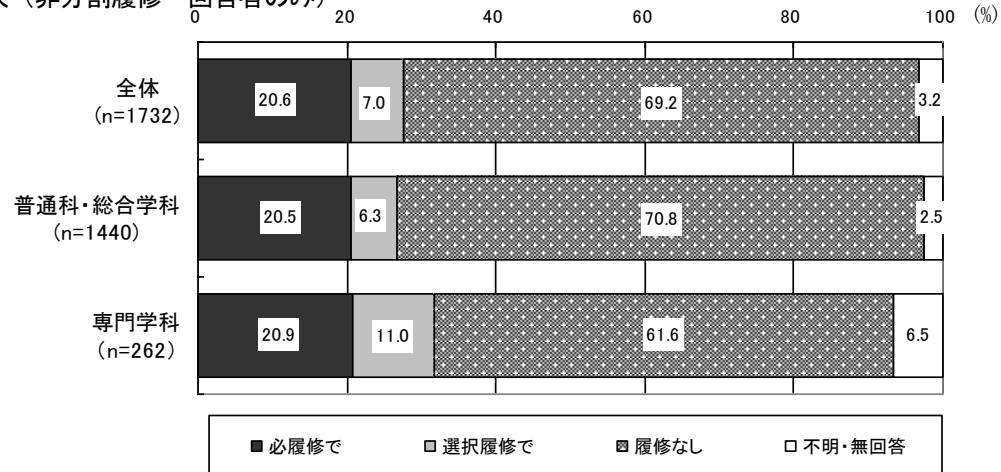
「専門学科」では、年次に関わらず「代替科目」が最も高く、1年次58.5%、2年次64.2%、3年次51.9%であった。「情報A」「情報B」「情報C」の比較では、「情報A」が多い。

図表 II.4.2.2-1 設問II-1. 年次ごとの開講状況

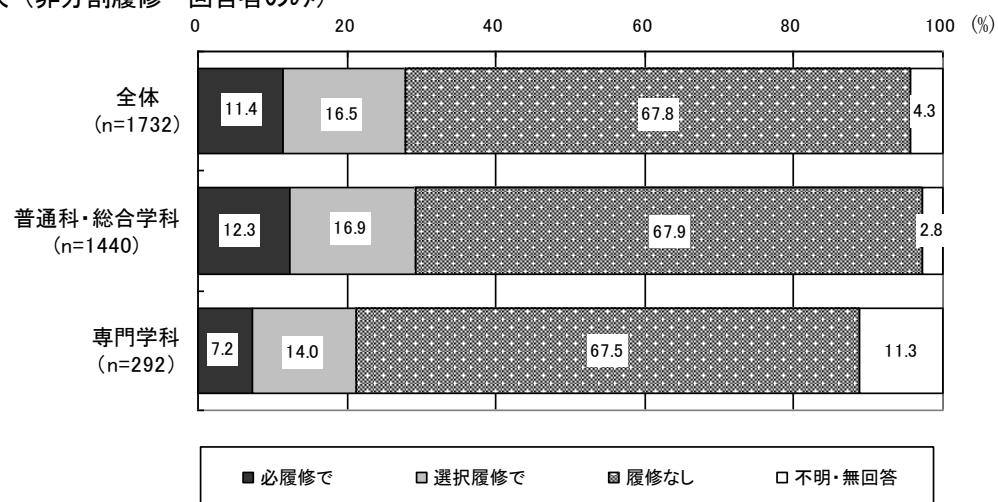
1 年次（非分割履修 回答者のみ）



2 年次（非分割履修 回答者のみ）

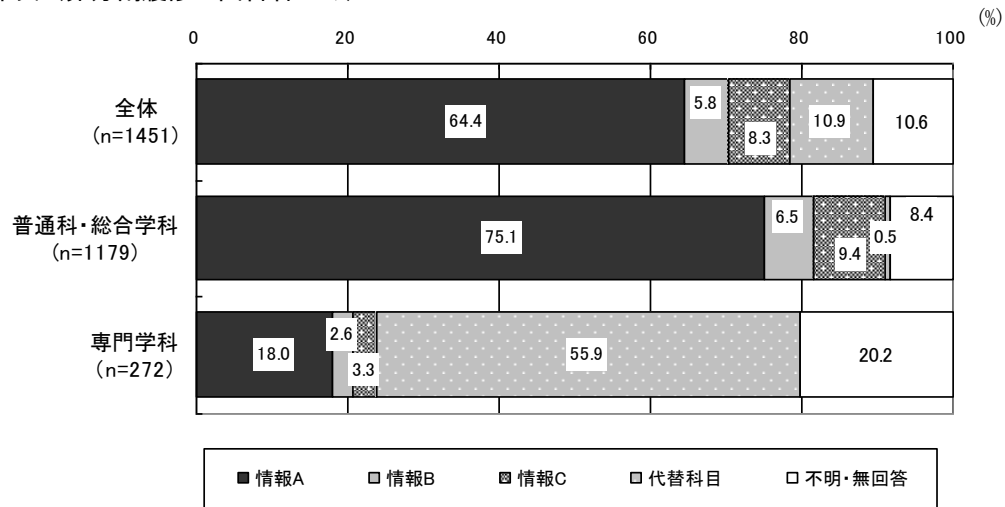


3 年次（非分割履修 回答者のみ）

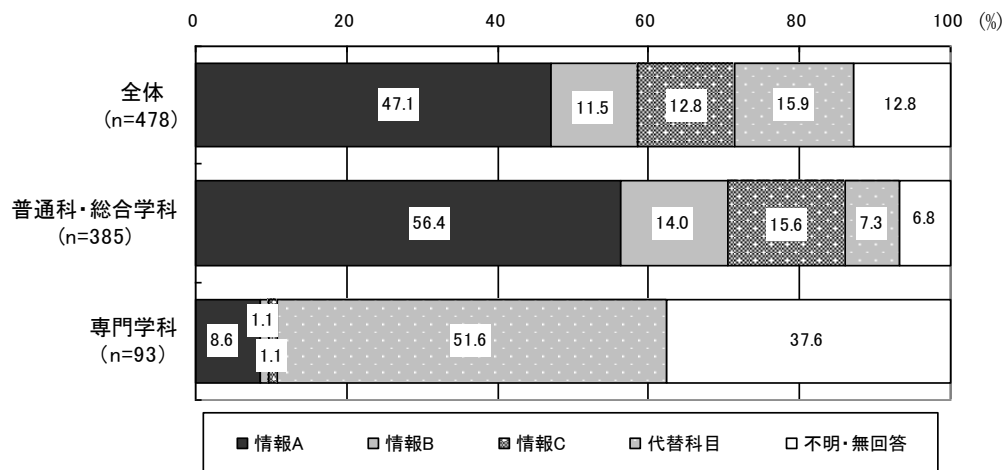


図表 II.4.2.2-2 設問II-1. 年次ごとの学習内容

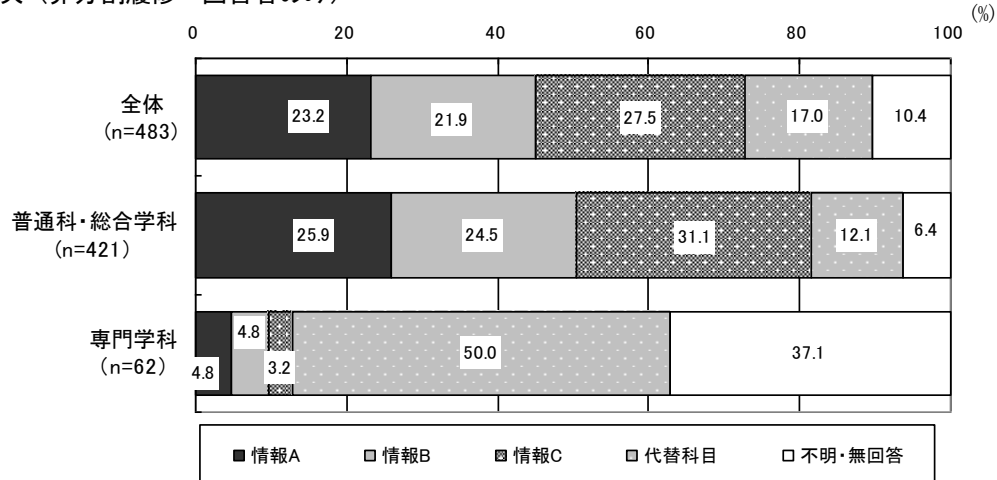
1 年次（非分割履修 回答者のみ）



2 年次（非分割履修 回答者のみ）

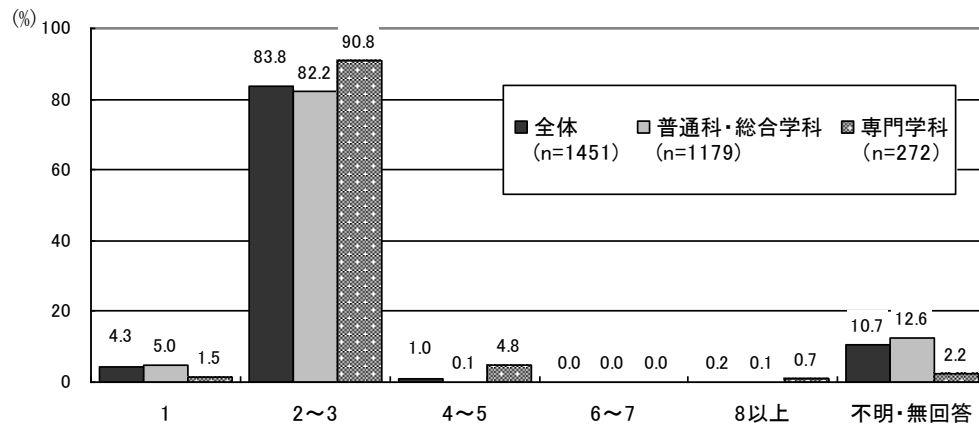


3 年次（非分割履修 回答者のみ）

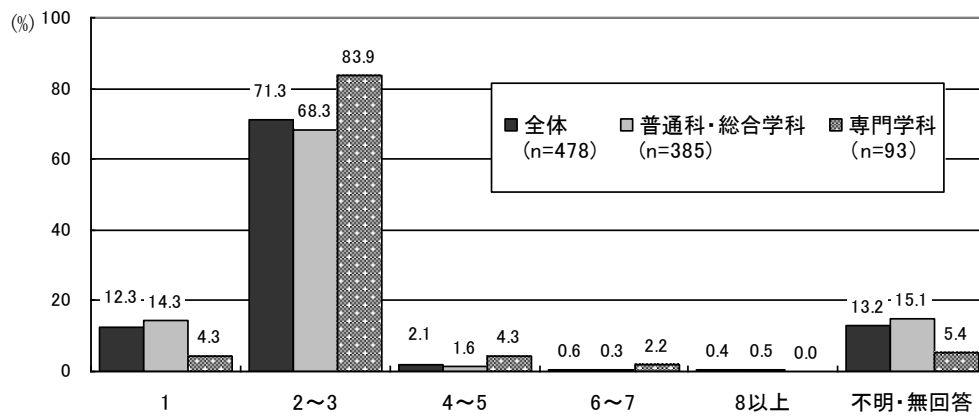


図表 II.4.2.2-3 設問II-1. 年次ごとの単位数

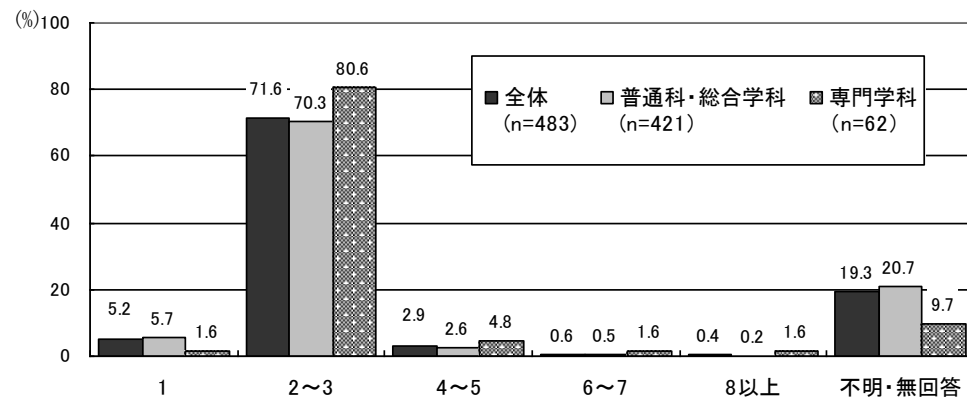
1 年次（非分割履修 回答者のみ）



2 年次（非分割履修 回答者のみ）

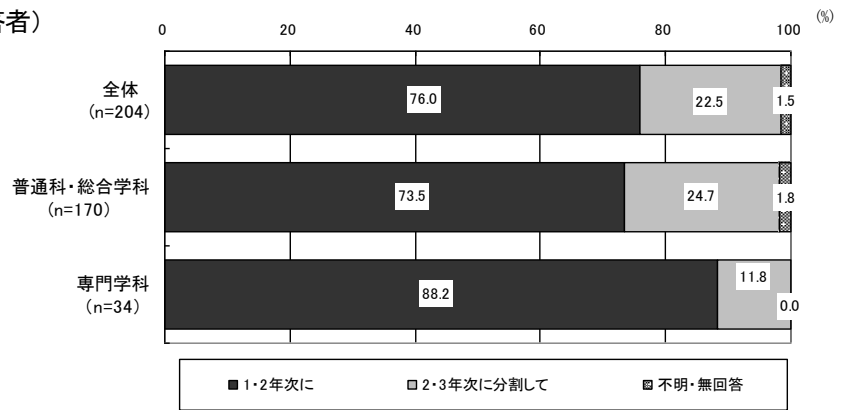


3 年次（非分割履修 回答者のみ）

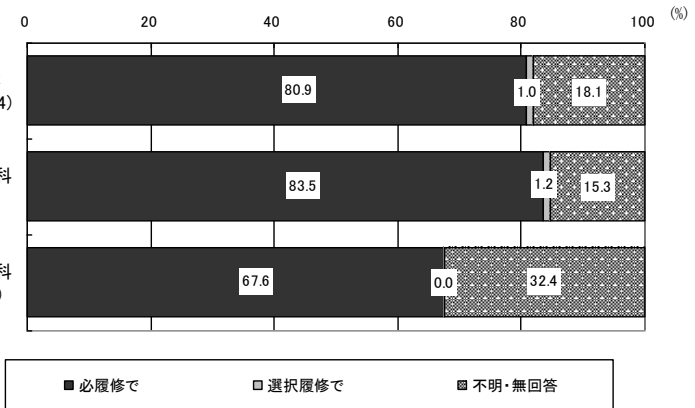


図表 II. 4. 2. 2-4 設問II-1. 分割履修回答者の開講状況

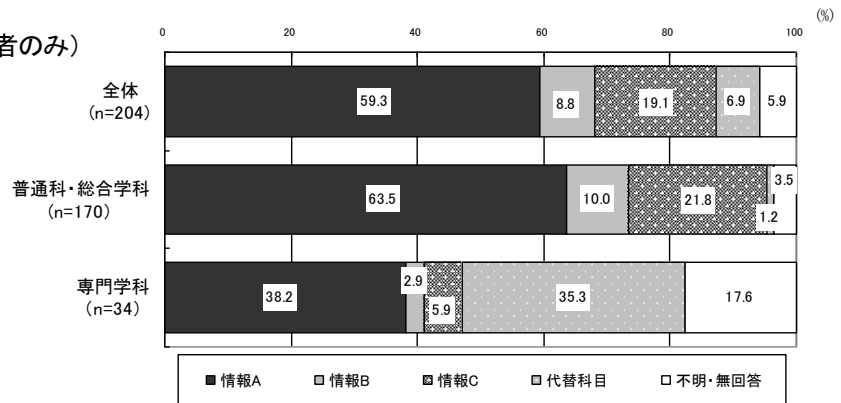
履修時期（「分割履修」回答者）



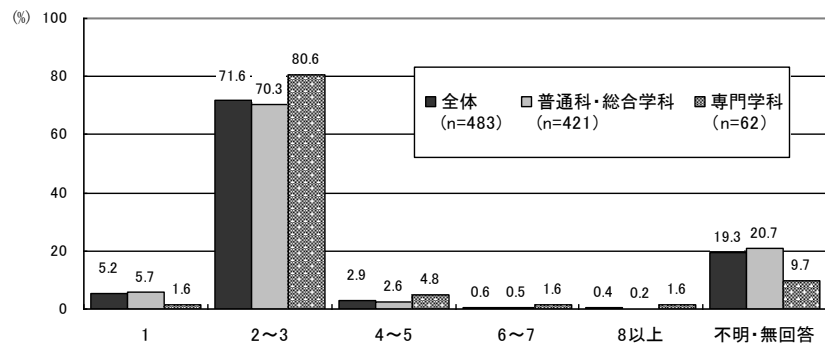
履修形態（「分割履修」回答者のみ）



履修内容（分割履修 回答者のみ）



単位数（分割履修 回答者のみ）



4.2.3. 生徒の高等学校入学時のスキルについて

「コンピュータの基本操作」や「Web 検索の基本操作」など、パソコンなどのスキルについて、高等学校入学時点で獲得されているべき必須のスキルか否か、そのスキルの獲得の有無をチェックしているか否かを聞いた。

「全体」で、「必須」と位置づけられているスキルで最も高いのは「コンピュータの基本操作」で 68.6%、次いで「キー入力」の 67.5%と続く。チェックの有無についても「コンピュータの基本操作」で 65.2%、次いで「キー入力」の 64.8%である。スキル間の順位、スコアも大きな差はない。

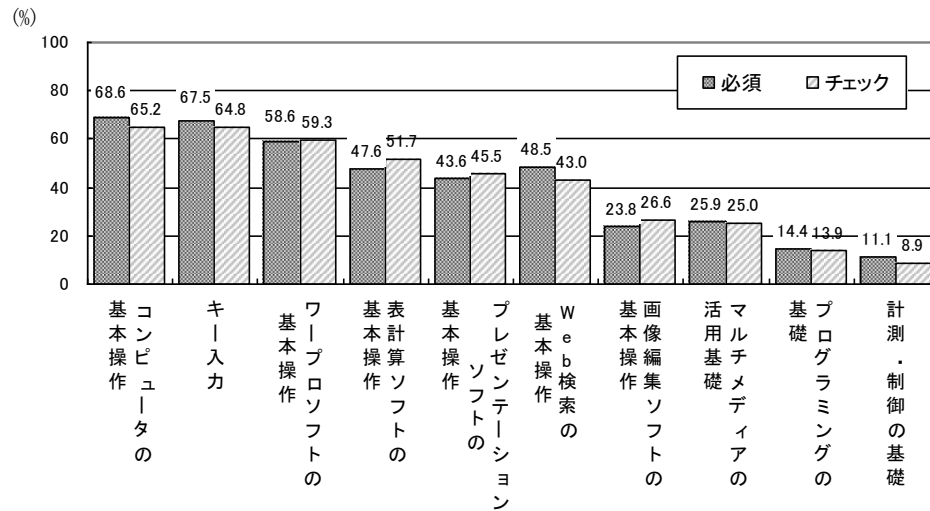
学科別で見ても、「必須」と位置づけられている項目、「チェックしている」項目ともに上位項目に大きな差は見られない。ただし「普通科・総合学科」よりも「専門学科」の方が、ほとんどの項目で「必須」、「チェックしている」のスコアがともに高いものが多く、特に「プログラミングの基礎」は 10 ポイント以上高い。

図表 II.4.2.3-1 設問Ⅱ-2. 高等学校入学時の情報スキル

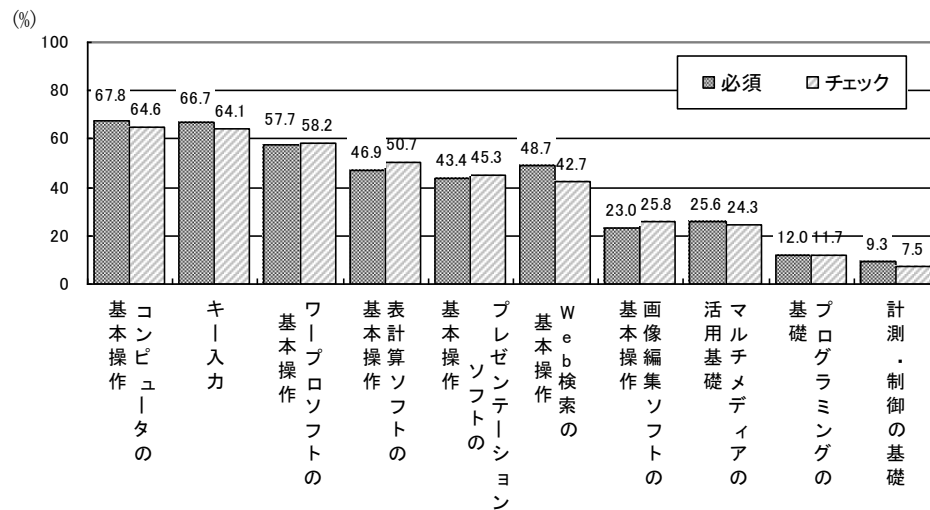
							(%)	
							必須 (A+B)	チェッ クして いる (A+C)

図表 II.4.2.3-2 設問Ⅱ-2「必要の有無」と「チェックの有無」の比較

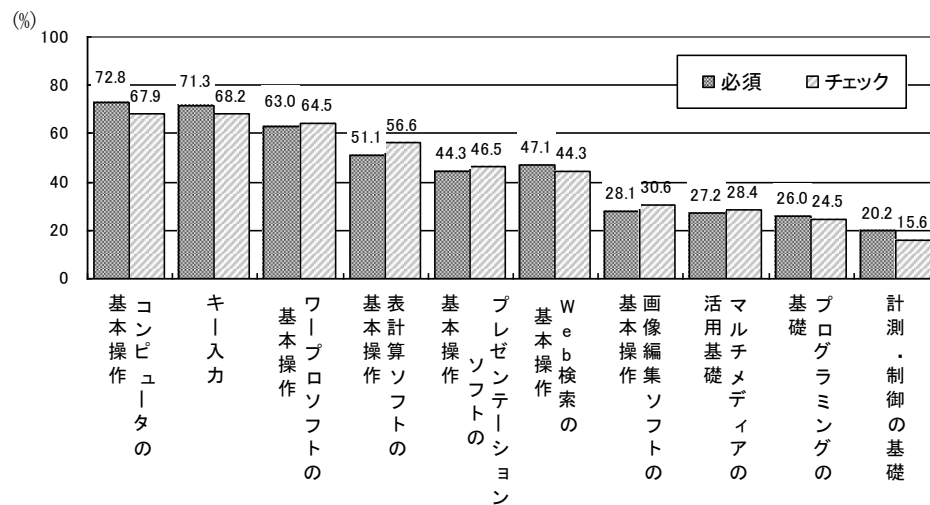
全体 (n=1938)



普通科・総合学科 (n=1611)



専門学科 (n=327)



4.2.4. 学習内容の実施内容と意識

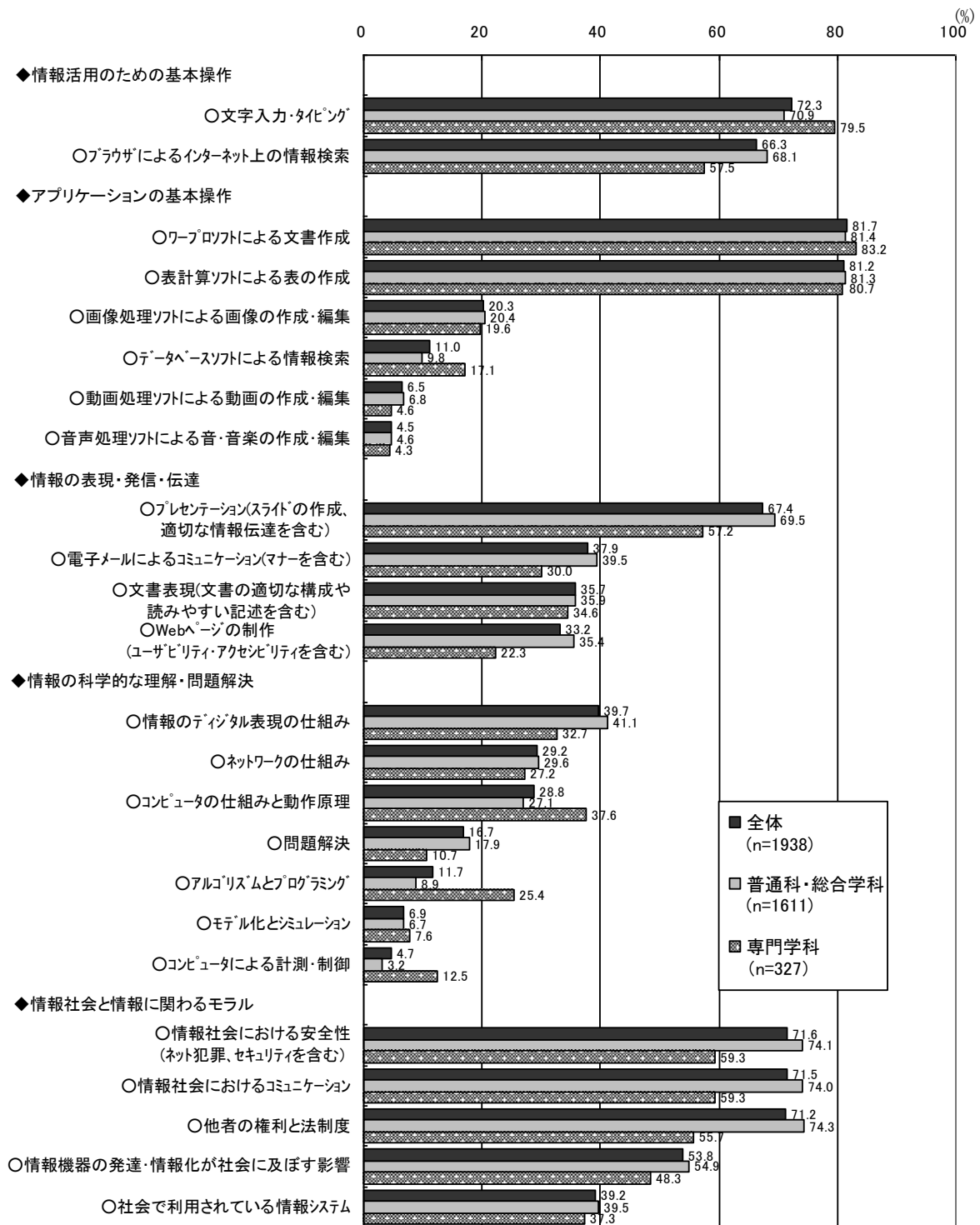
24 項目から構成される学習内容について、授業実施「その内容を授業でどの程度、教えているか」、重要度「その内容がどの程度、重要だと思うか」、指導の自信「その内容をどの程度、自信をもって指導できているか」を質問した。

(1) 「授業実施」について

実施の程度で見ると、全体で「教えている」が高いのは「アプリケーションの基本操作」に分類される「ワープロソフトによる文書作成」「表計算ソフトによる表の作成」の 2 項目でともに 80%を超えている。次いで「情報社会と情報に関わるモラル」に分類される「情報社会における安全性(ネット犯罪、セキュリティを含む)」「情報社会におけるコミュニケーション(ルールやマナー)」「他者の権利と法制度(著作権、肖像権、個人情報保護など)」や、「情報活用のための基本操作」に分類される「文字入力・タイピング」が 70%を超える。

学科別で見ると、「普通科・総合学科」「専門学科」ともに「全体」と同じ項目が上位に挙げられているが、相対的に「普通科・総合学科」の方が、「専門学科」より「情報社会に関わるモラル」に分類された項目のスコアが高い。「アプリケーションの基本操作」「情報活用のための基本操作」に分類された上位項目は、わずかな差ではあるが「専門学科」の方が高くなっている。

図表 II.4.2.4-1 設問II-3A. 学習内容「教えている」

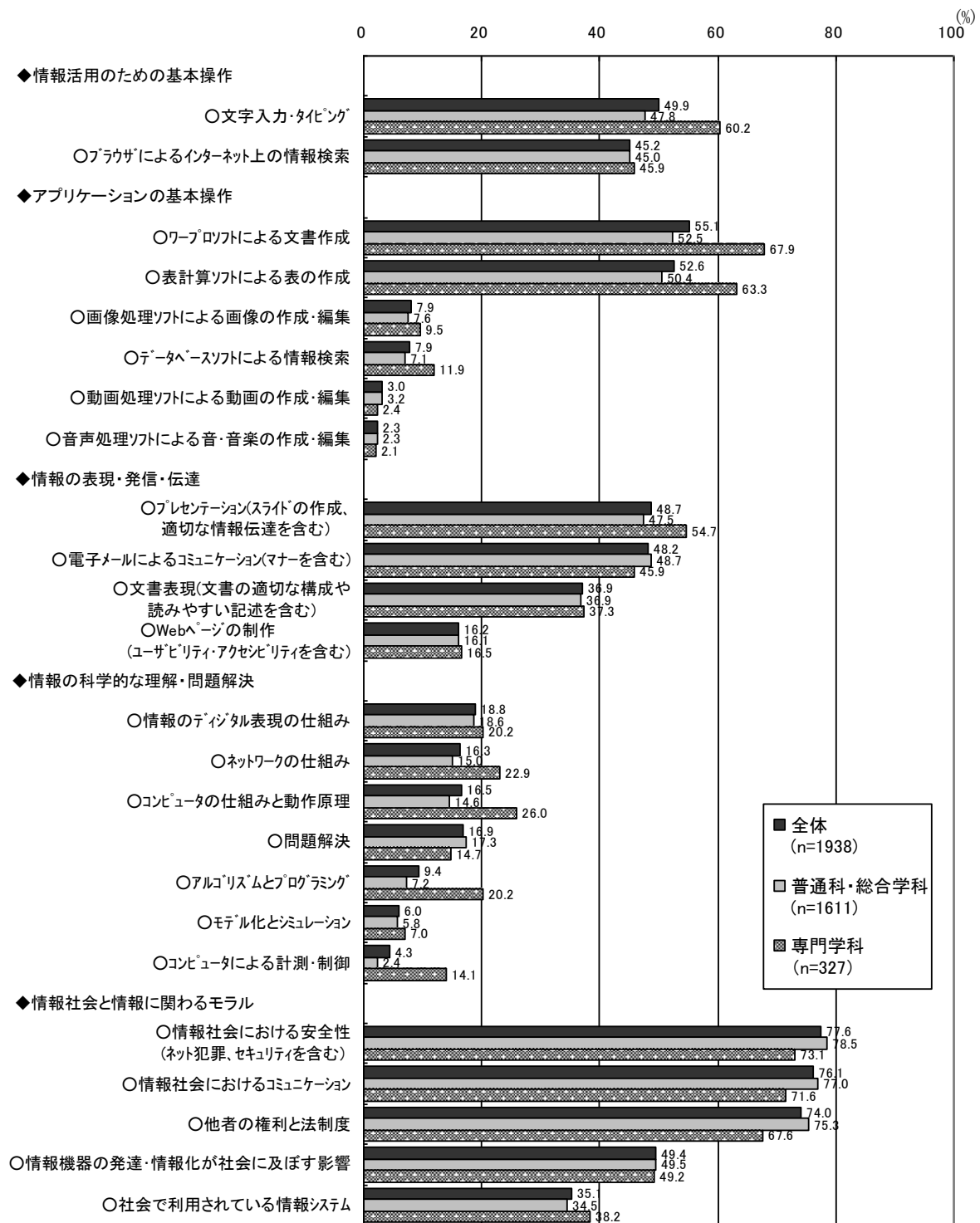


(2) 「重要度」について

重要度の程度で見ると、全体で「きわめて重要だと思う」が高いのは「情報社会と情報に関わるモラル」に分類される「情報社会における安全性(ネット犯罪、セキュリティを含む)」「情報社会におけるコミュニケーション(ルールやマナー)」「他者の権利と法制度(著作権、肖像権、個人情報保護など)」で70%を超えている。次いで高いのは「アプリケーションの基本操作」に分類される「ワープロソフトによる文書作成」、「表計算ソフトによる表の作成」と、「情報活用のための基本操作」に分類される「文字入力・タイピング」でおよそ50%である。

学科別で見ると、「普通科・総合学科」「専門学科」ともに「全体」と同じ項目が上位に挙げられているが、相対的に「普通科・総合学科」の方が、「専門学科」より「情報社会に関わるモラル」に分類された項目のスコアが5ポイント以上高い。反対に「アプリケーションの基本操作」「情報活用のための基本操作」に分類された上位項目は、「専門学科」の方が10ポイント以上高くなっている。

図表 II. 4. 2. 4-2 設問II-3B. 学習内容「極めて重要と思う」



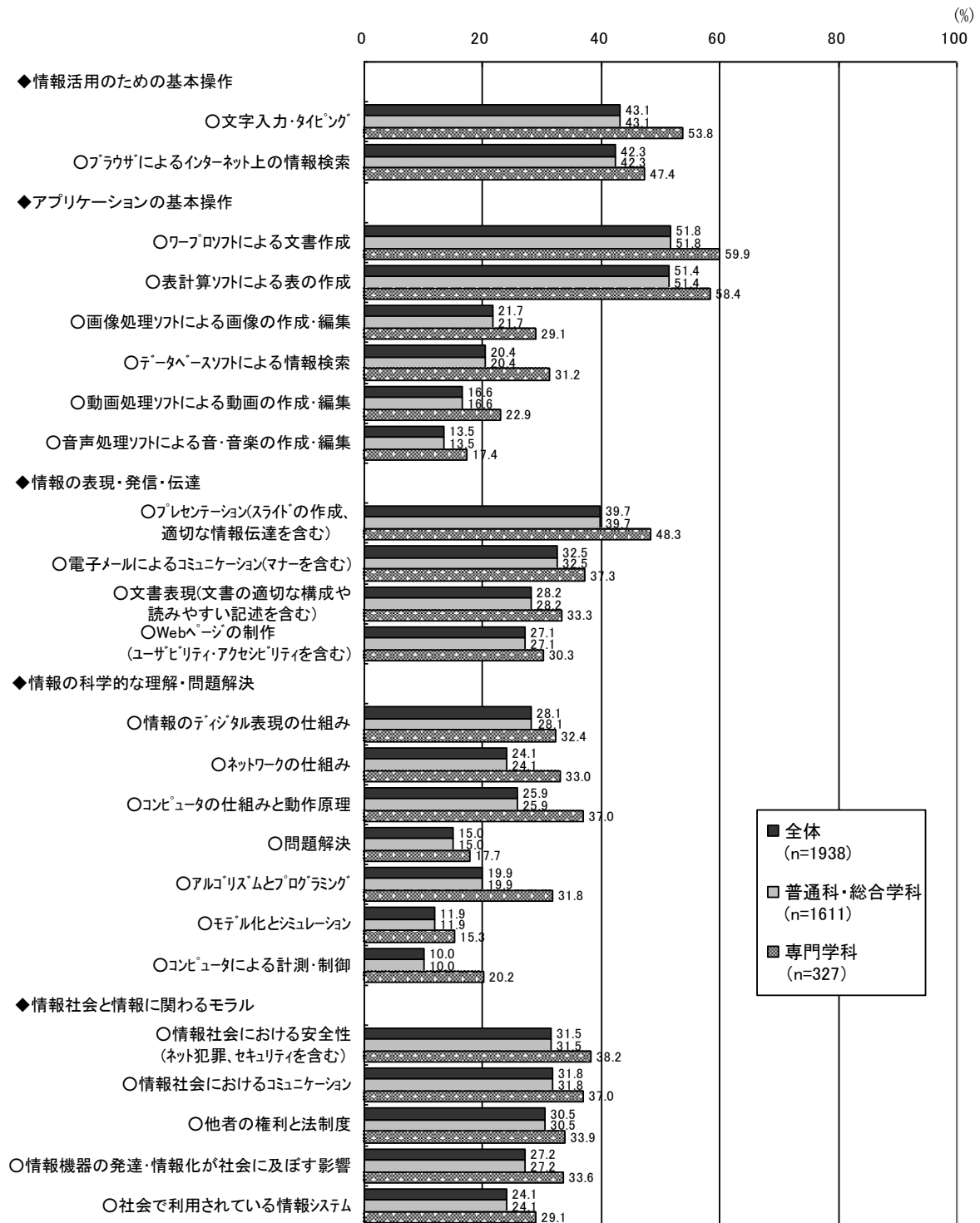
(3) 「指導の自信」について

全体では、50%を超えるのは「アプリケーションの基本操作」に分類される「ワープロソフトによる文書作成」「表計算ソフトによる表の作成」の2項目のみであった。40%を越えているのは「文字入力・タイピング」「ブラウザによる WWW 上の情報検索」「プレゼンテーション(スライドの作成、適切な情報伝達を含む)」。他項目と比較し、日常生活で利用する可能性が高いソフトの基本操作の自信度は高いといえる。「自信がある」「普通にやれる」をあわせるとほとんどの項目が 80%を超える。

ただし「情報の科学的な理解・問題解決」に分類される「コンピュータによる計測・制御」(48.8%)、「モデル化とシミュレーション」(56.1%)などや、「アプリケーションの基本操作」に分類されるものでも日常での利用頻度が少ないと思われる「音声処理ソフトによる音・音楽の作成・編集」(63.7%)、「動画処理ソフトによる動画の作成・編集」(70.6%)は、他の項目と比べ、自信度が低い。

学科別で見ても、全体の傾向と大きな差は見られないが、「専門学科」の方が「普通科・総合学科」と比較して自信度が高い。

図表 II.4.2.4-3 設問II-3C. 学習内容「(指導に) 自信がある」



(4) 授業実施、重要度、指導の自信との関連

「教えている」と「極めて重要と思う」「(指導に) 自信がある」を比較すると、「文字入力」や「ワープロによる文書作成」といった操作スキルの要素が強いものと、「情報社会における安全性」といった知識・意識の要素が強いものとは傾向が異なる。

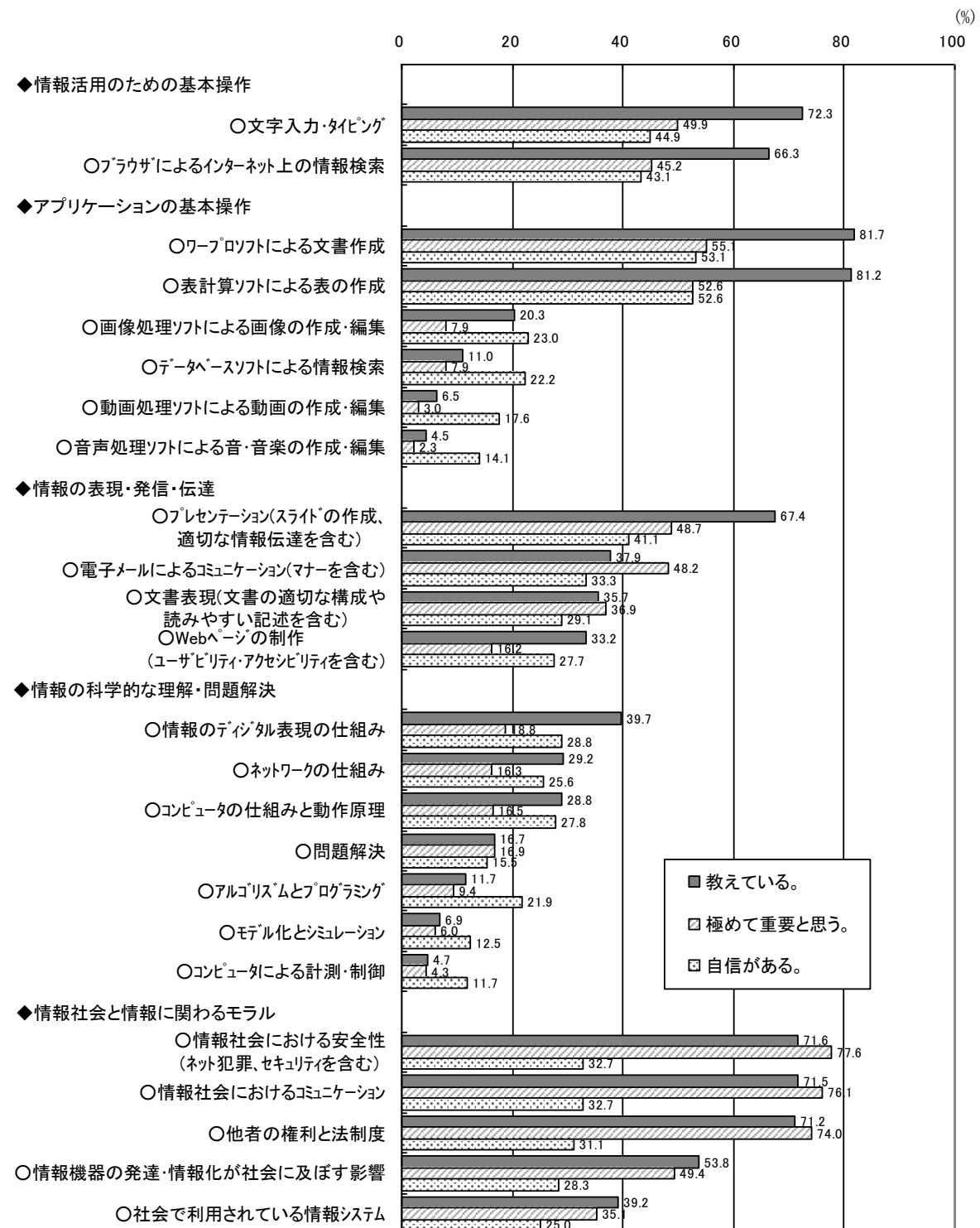
操作スキルの要素が強いものは、日常使うであろうソフトになるほど、「教えている」「極めて重要と思う」「自信がある」のスコアが高い。また「極めて重要と思う」が低くても「自信がある」が高い項目が多い。

一方、「知識だけでなく意識の向上が求められるもの」では、「教えている」のスコアが高い項目は「極めて重要と思う」のスコアも高いが、「自信」の面では「教えている」「極めて重要と思う」と比べて低いものが多い。例えば「情報社会における安全性(ネット犯罪、セキュリティを含む)」では、「教えている」が 71.6%、「極めて重要と思う」が 77.6%、しかし「自信がある」では 32.7%と、およそ 40 ポイントの差が見られる。

「情報の科学的な理解・問題解決」に分類される「ネットワークの仕組み」などは、「極めて重要である」よりも「自信がある」が高い。操作スキルや知識であれば十分に教える自信はあるが、ただ知っているだけでなく、意識の向上を求められるものは容易に教えられるものではないとの認識があると思われる。特に「情報社会と情報に関わるモラル」で重要と評価されている項目は、意識が低いと日常からトラブルに巻き込まれる可能性が高くなり、教員の苦慮が推察される結果となった。

図表 II.4.2.4-4 設問II-3.「授業実施」「重要度」「指導の自信」の比較

全体 (n=1938)



図表 II. 4. 2. 4-5 設問II-3.「授業実施」「重要度」「指導の自信」一覧（全体）

◆全体

		80%以上				60%以上				40%以上				(%) (n=1938)			
		A. 授業実施				B. 重要度				C. 指導の自信				(1)	(2)	(3)	無回答
		(1) 教えている。	(2) 一部教えている。	(3) 教えていない。	無回答	(1) 極めて重要と思う。	(2) 重要と思う。	(3) それほど重要とは思わない。	無回答	(1) 自信がある。	(2) 普通にやれる。	(3) 自信がない。	無回答				
情報活用のための基本操作	・文字入力・タイピング	72.3	18.7	8.8	0.2	49.9	40.4	9.6	0.2	44.9	52.4	2.5	0.2				
	・ブラウザによるインターネット上の情報検索	66.3	26.8	6.6	0.3	45.2	46.8	7.9	0.2	43.1	55.5	1.2	0.2				
アプリケーションの基本操作	・ワープロソフトによる文書作成	81.7	14.0	4.1	0.2	55.1	40.4	4.4	0.2	53.1	46.0	0.7	0.2				
	・表計算ソフトによる表の作成	81.2	15.4	3.3	0.2	52.6	43.9	3.4	0.2	52.6	46.3	1.0	0.2				
	・データベースソフトによる情報検索	11.0	27.2	61.6	0.2	7.9	46.7	45.3	0.2	22.2	56.7	20.9	0.2				
	・画像処理ソフトによる画像の作成・編集	20.3	44.3	35.3	0.2	7.9	48.8	43.1	0.2	23.0	62.5	14.3	0.2				
	・音声処理ソフトによる音・音楽の作成・編集	4.5	18.3	77.0	0.2	2.3	30.2	67.3	0.2	14.1	49.6	36.1	0.2				
	・動画処理ソフトによる動画の作成・編集	6.5	20.4	73.0	0.2	3.0	35.0	61.8	0.2	17.6	53.0	29.2	0.2				
情報の表現・発信・伝達	・Webページの制作(ユーザビリティ・アクセシビリティを含む)	33.2	33.0	33.6	0.2	16.2	54.0	29.7	0.2	27.7	57.6	14.6	0.2				
	・電子メールによるコミュニケーション(マナーを含む)	37.9	42.8	19.2	0.2	48.2	45.2	6.5	0.2	33.3	61.0	5.5	0.2				
	・文書表現(文書の適切な構成や読みやすい記述を含む)	35.7	44.1	20.1	0.2	36.9	55.2	7.7	0.2	29.1	62.2	8.6	0.2				
	・プレゼンテーション(スライドの作成、適切な情報伝達を含む)	67.4	23.8	8.6	0.2	48.7	46.1	5.0	0.2	41.1	56.0	2.7	0.2				
情報の科学的な理解・問題解決	・情報のデジタル表現の仕組み(文字、画像、音声、動画など)	39.7	42.5	17.6	0.2	18.8	62.1	18.8	0.2	28.8	59.0	11.9	0.3				
	・ネットワークの仕組み(プロトコル、インターネットの構造など)	29.2	48.5	22.2	0.2	16.3	62.0	21.5	0.2	25.6	57.5	16.7	0.3				
	・コンピュータの仕組みと動作原理	28.8	49.2	21.8	0.2	16.5	58.8	24.5	0.2	27.8	57.8	14.2	0.2				
	・アルゴリズムとプログラミング	11.7	24.0	64.1	0.2	9.4	40.5	49.9	0.2	21.9	45.1	32.8	0.2				
	・コンピュータによる計測・制御	4.7	14.4	80.7	0.2	4.3	32.7	62.8	0.2	11.7	37.1	51.0	0.2				
	・モデル化とシミュレーション	6.9	19.8	73.2	0.2	6.0	39.0	54.9	0.2	12.5	43.6	43.7	0.2				
	・問題解決(問題解決プロセス、問題の分析、KJ法など)	16.7	34.3	48.9	0.2	16.9	50.3	32.7	0.2	15.5	53.6	30.7	0.2				
情報社会と情報に関わるモラル	・情報機器の発達・情報化が社会に及ぼす影響	53.8	38.8	7.3	0.2	49.4	45.7	4.7	0.2	28.3	65.0	6.6	0.2				
	・社会で利用されている情報システム	39.2	48.3	12.4	0.2	35.1	55.7	9.0	0.2	25.0	64.5	10.4	0.2				
	・他者の権利と法制度(著作権、肖像権、個人情報保護など)	71.2	26.1	2.6	0.2	74.0	24.9	0.9	0.2	31.1	63.9	4.9	0.2				
	・情報社会におけるコミュニケーション(ルールやマナー)	71.5	25.9	2.5	0.2	76.1	22.8	0.9	0.2	32.7	63.0	4.2	0.2				
	・情報社会における安全性(ネット犯罪、セキュリティを含む)	71.6	25.8	2.4	0.2	77.6	21.4	0.9	0.2	32.7	62.0	5.1	0.2				

図表 II.4.2.4-6 設問II-3.「授業実施」「重要度」「指導の自信」一覧（普通科・総合学科）

◆普通科・総合学科

		80%以上	60%以上	40%以上	(%) (n=1611)								
		A. 授業実施				B. 重要度				C. 指導の自信			
		(1) 教えている。	(2) 一部教えている。	(3) 教えていない。	無回答	(1) 極めて重要と思う。	(2) 重要と思う。	(3) それ程重要とは思わない。	無回答	(1) 自信がある。	(2) 普通にやれる。	(3) 自信がない。	無回答
情報活用のための基本操作	・文字入力・タイピング	70.9	19.9	9.2	0.1	47.8	41.5	10.6	0.1	43.1	53.9	2.9	0.1
	・ブラウザによるインターネット上の情報検索	68.1	26.3	5.5	0.1	45.0	47.7	7.3	0.1	42.3	56.5	1.1	0.1
アプリケーションの基本操作	・ワープロソフトによる文書作成	81.4	14.0	4.6	0.1	52.5	42.2	5.3	0.1	51.8	47.4	0.8	0.1
	・表計算ソフトによる表の作成	81.3	15.8	2.9	0.1	50.4	45.7	3.8	0.1	51.4	47.4	1.1	0.1
	・データベースソフトによる情報検索	9.8	26.4	63.7	0.1	7.1	44.8	48.1	0.1	20.4	58.1	21.4	0.1
	・画像処理ソフトによる画像の作成・編集	20.4	44.4	35.1	0.1	7.6	46.8	45.5	0.1	21.7	63.3	15.0	0.1
	・音声処理ソフトによる音・音楽の作成・編集	4.6	17.7	77.7	0.1	2.3	29.0	68.7	0.1	13.5	49.6	36.9	0.1
	・動画処理ソフトによる動画の作成・編集	6.8	18.9	74.2	0.1	3.2	32.8	64.0	0.1	16.6	53.3	30.0	0.1
情報の表現・発信・伝達	・Webページの制作(ユーザビリティ・アクセシビリティを含む)	35.4	32.4	32.1	0.1	16.1	53.9	29.9	0.1	27.1	58.5	14.3	0.1
	・電子メールによるコミュニケーション(マナーを含む)	39.5	42.6	17.8	0.1	48.7	45.1	6.2	0.1	32.5	61.9	5.5	0.1
	・文書表現(文書の適切な構成や読みやすい記述を含む)	35.9	44.9	19.1	0.1	36.9	55.6	7.5	0.1	28.2	63.0	8.8	0.1
	・プレゼンテーション(スライドの作成、適切な情報伝達を含む)	69.5	22.7	7.8	0.1	47.5	47.2	5.3	0.1	39.7	57.7	2.6	0.1
情報の科学的な理解・問題解決	・情報のデジタル表現の仕組み(文字、画像、音声、動画など)	41.1	42.7	16.1	0.1	18.6	63.2	18.1	0.1	28.1	60.1	11.8	0.1
	・ネットワークの仕組み(プロトコル、インターネットの構造など)	29.6	49.0	21.3	0.1	15.0	63.4	21.5	0.1	24.1	59.1	16.8	0.1
	・コンピュータの仕組みと動作原理	27.1	50.3	22.6	0.1	14.6	60.1	25.2	0.1	25.9	59.0	15.1	0.1
	・アルゴリズムとプログラミング	8.9	23.2	67.9	0.1	7.2	40.3	52.5	0.1	19.9	45.8	34.3	0.1
	・コンピュータによる計測・制御	3.2	12.7	84.0	0.1	2.4	31.5	66.0	0.1	10.0	36.8	53.1	0.1
	・モデル化とシミュレーション	6.7	19.3	73.9	0.1	5.8	38.1	56.1	0.1	11.9	43.8	44.3	0.1
	・問題解決(問題解決プロセス、問題の分析、KJ法など)	17.9	34.8	47.2	0.1	17.3	50.6	32.0	0.1	15.0	54.5	30.4	0.1
情報社会と情報に関わるモラル	・情報機器の発達・情報化が社会に及ぼす影響	54.9	38.4	6.6	0.1	49.5	45.9	4.6	0.1	27.2	66.3	6.5	0.1
	・社会で利用されている情報システム	39.5	48.4	12.0	0.1	34.5	56.5	8.9	0.1	24.1	65.3	10.5	0.1
	・他者の権利と法制度(著作権、肖像権、個人情報保護など)	74.3	23.5	2.1	0.1	75.3	23.7	0.9	0.1	30.5	64.7	4.7	0.1
	・情報社会におけるコミュニケーション(ルールやマナー)	74.0	23.7	2.2	0.1	77.0	22.2	0.7	0.1	31.8	64.0	4.1	0.1
	・情報社会における安全性(ネット犯罪、セキュリティを含む)	74.1	23.5	2.4	0.1	78.5	20.7	0.7	0.1	31.5	63.4	5.0	0.1

図表 II. 4. 2. 4-7 設問II-3.「授業実施」「重要度」「指導の自信」一覧(専門学科)

◆専門学科

		80%以上				60%以上				40%以上				(%) (n=327)			
		A. 授業実施				B. 重要度				C. 指導の自信							
		(1) 教えて いる。	(2) 一部教 えている。	(3) 教えて いない。	無回答	(1) 極めて 重要と 思う。	(2) 重要と 思う。	(3) それ程 重要と は思わ ない。	無回答	(1) 自信が ある。	(2) 普通に やれる。	(3) 自信が ない。	無回答				
情報活用の ための 基本操作	・文字入力・タイピング	79.5	12.8	7.0	0.6	60.2	34.6	4.6	0.6	53.8	44.6	0.9	0.6				
	・ブラウザによるインターネット上の情報検索	57.5	29.4	11.9	1.2	45.9	42.5	11.0	0.6	47.4	50.2	1.8	0.6				
アプリケー ションの 基本操作	・ワープロソフトによる文書作成	83.2	14.4	1.8	0.6	67.9	31.2	0.3	0.6	59.9	39.1	0.3	0.6				
	・表計算ソフトによる表の作成	80.7	13.2	5.2	0.9	63.3	34.9	1.2	0.6	58.4	40.7	0.3	0.6				
	・データベースソフトによる情報検索	17.1	31.5	50.8	0.6	11.9	56.3	31.2	0.6	31.2	49.8	18.3	0.6				
	・画像処理ソフトによる画像の作成・編集	19.6	43.4	36.4	0.6	9.5	58.7	31.2	0.6	29.1	59.0	11.3	0.6				
	・音声処理ソフトによる音・音楽の作成・編集	4.3	21.1	74.0	0.6	2.1	36.4	60.9	0.6	17.4	49.5	32.1	0.9				
	・動画処理ソフトによる動画の作成・編集	4.6	28.1	66.7	0.6	2.4	45.9	51.1	0.6	22.9	51.4	25.1	0.6				
情報の表現 ・発信 ・伝達	・Webページの制作(ユーザビリティ・アクセシビリティを含む)	22.3	35.8	41.3	0.6	16.5	54.4	28.4	0.6	30.3	53.2	15.9	0.6				
	・電子メールによるコミュニケーション(マナーを含む)	30.0	43.4	26.0	0.6	45.9	45.9	7.6	0.6	37.3	56.3	5.8	0.6				
	・文書表現(文書の適切な構成や読みやすい記述を含む)	34.6	39.8	25.1	0.6	37.3	53.5	8.6	0.6	33.3	58.1	8.0	0.6				
	・プレゼンテーション(スライドの作成、適切な情報伝達を含む)	57.2	29.7	12.5	0.6	54.7	41.0	3.7	0.6	48.3	48.0	3.1	0.6				
情報の 科学的な 理解・ 問題解決	・情報のデジタル表現の仕組み(文字、画像、音声、動画など)	32.7	41.6	25.1	0.6	20.2	56.9	22.3	0.6	32.4	53.8	12.5	1.2				
	・ネットワークの仕組み(プロトコル、インターネットの構造など)	27.2	45.6	26.6	0.6	22.9	54.7	21.7	0.6	33.0	49.5	16.2	1.2				
	・コンピュータの仕組みと動作原理	37.6	44.0	17.7	0.6	26.0	52.3	21.1	0.6	37.0	52.3	9.8	0.9				
	・アルゴリズムとプログラミング	25.4	28.4	45.6	0.6	20.2	41.6	37.6	0.6	31.8	41.6	25.7	0.9				
	・コンピュータによる計測・制御	12.5	22.6	64.2	0.6	14.1	38.5	46.8	0.6	20.2	38.5	40.4	0.9				
	・モデル化とシミュレーション	7.6	22.0	69.7	0.6	7.0	43.1	49.2	0.6	15.3	42.8	41.0	0.9				
	・問題解決(問題解決プロセス、問題の分析、KJ法など)	10.7	31.8	56.9	0.6	14.7	48.6	36.1	0.6	17.7	49.2	32.1	0.9				
情報社会と 情報に 関わる モラル	・情報機器の発達・情報化が社会に及ぼす影響	48.3	40.7	10.4	0.6	49.2	45.0	5.2	0.6	33.6	58.7	7.0	0.6				
	・社会で利用されている情報システム	37.3	47.7	14.4	0.6	38.2	51.7	9.2	0.9	29.1	60.6	9.8	0.6				
	・他者の権利と法制度(著作権、肖像権、個人情報保護など)	55.7	38.8	4.9	0.6	67.6	30.9	0.9	0.6	33.9	59.6	5.8	0.6				
	・情報社会におけるコミュニケーション(ルールやマナー)	59.3	36.4	3.7	0.6	71.6	26.0	1.8	0.6	37.0	57.8	4.6	0.6				
	・情報社会における安全性(ネット犯罪、セキュリティを含む)	59.3	37.3	2.8	0.6	73.1	24.8	1.5	0.6	38.2	55.4	5.8	0.6				

(5) 履修内容別の比較

「情報 A」「情報 B」「情報 C」の学習内容は異なる。それぞれに含まれている学習内容と、「授業の実施（の有無）」「重要度」「指導の自信」とは関連性があることが予想されることから、設問Ⅱ-1 で得られた履修内容の回答結果を基に、各回答者（教員）が「情報 A」「情報 B」「情報 C」のいずれを実施しているのか判別し、「情報 A」「情報 B」「情報 C」別に各学習内容別の「授業の実施（の有無）」「重要度」「指導の自信」を集計した。

結果、「情報 A」「情報 B」「情報 C」別の違いとしては、科目ごとの学習内容の違いからくる「授業実施（の有無）」でいくつかの異なる傾向が見られた。具体的には、情報 A で「教えている」とする回答のうち、「文字入力・タイピング（76.2%）」「ブラウザによるインターネット上の情報検索（71.5%）」「ワープロソフトによる文書作成（86.7%）」の各項目では情報 B、情報 C に比べて 10 ポイント前後高い値になっている。情報 B で「教えている」とする回答は、「コンピュータの仕組みと動作原理（37.8%）」「アルゴリズムとプログラミング（32.4%）」「モデル化とシミュレーション（27.4%）」の各項目で他より高く、特に「アルゴリズムとプログラミング」「モデル化とシミュレーション」は 25 ポイント前後高い。一方で「プレゼンテーション」を「教えている」とする回答は情報 A、情報 C と比べ 10 ポイント以上低く、58.9%に留まる。同様に「他者の権利と法制度（67.6%）」「情報社会におけるコミュニケーション（65.6%）」「情報社会における安全性（66.4%）」などの項目でも 10 ポイント近く低い値となっている。情報 C では、「Web ページの制作（42.8%）」「電子メールによるコミュニケーション（46.1%）」で「教えている」と回答する割合が若干高い傾向を示すほか、「情報機器の発達・情報化が社会に及ぼす影響（61.4%）」「社会で利用されている情報システム（42.8%）」も比較的高い。

重要度の点では、実施内容ほど大きな差は見られないが、情報 B の「極めて重要」とする回答で「アルゴリズムとプログラミング（18.3%）」「モデル化とシミュレーション（14.9%）」が情報 A、情報 C に比べ高い値となっている。

授業実施と重要度では若干の傾向の差が見られたものの、「指導の自信」の回答では大きな差は見られなかった。強いて上げれば、情報 A を教えている教員の「自信がある」とする項目で、「情報のデジタル表現の仕組み（25.5%）」「ネットワークの仕組み（22.7%）」の 2 つは情報 B、情報 C を教えている教員に比べて若干低い値となっている。

なお、今回の回答者を集計したところ、教科「情報」の担当教員が必ずしも単一の科目だけを担当しているのではないことがわかる。例えば、「情報 A」を教えている教員 1,300 人のうち、「情報 B」「情報 C」も教えている教員は 10%未満であるが、「情報 B」を教えている教員の 40%、「情報 C」を教えている教員の 30%が「情報 A」も教えている。つまり「情報 A」しか教えていない教員は多いが、「情報 B」「情報 C」を教えている教員の 30%から 40%は「情報 A」も教えている。そのため、ここで挙げたそれぞれの差は参考程度と理解することが妥当である。

図表 Ⅱ.4.2.4-8 設問Ⅱ-1. 履修内容併用率

(%)

	全体	情報A	情報B	情報C
n=	1938	1300	241	332
情報A	67.1	100.0	41.5	31.9
情報B	12.4	7.7	100.0	10.8
情報C	17.1	8.2	14.9	100.0

図表 II. 4. 2. 4-9 設問II-3.「授業実施」「重要度」「指導の自信」一覧（情報Aを教えている人）

◆情報A

		80%以上	60%以上	40%以上	(%) (n=1300)								
		A. 授業実施				B. 重要度				C. 指導の自信			
		(1) 教えている。	(2) 一部教えている。	(3) 教えていない。	無回答	(1) 極めて重要と思う。	(2) 重要と思う。	(3) それ程重要とは思わない。	無回答	(1) 自信がある。	(2) 普通にやれる。	(3) 自信がない。	無回答
情報活用のための基本操作	・文字入力・タイピング	76.2	17.2	6.6	0.0	52.1	39.4	8.5	0.0	44.5	52.5	2.9	0.0
	・ブラウザによるインターネット上の情報検索	71.5	24.3	4.2	0.0	47.1	46.8	6.1	0.0	42.5	56.2	1.3	0.0
アプリケーションの基本操作	・ワープロソフトによる文書作成	86.7	10.6	2.7	0.0	57.1	39.5	3.4	0.0	52.6	46.5	0.8	0.0
	・表計算ソフトによる表の作成	83.7	13.8	2.5	0.0	53.1	43.9	3.0	0.0	51.5	47.3	1.2	0.0
	・データベースソフトによる情報検索	10.4	25.8	63.8	0.0	7.7	44.5	47.8	0.0	19.4	57.4	23.2	0.0
	・画像処理ソフトによる画像の作成・編集	20.4	45.0	34.6	0.0	8.2	47.8	44.1	0.0	21.8	62.9	15.3	0.0
	・音声処理ソフトによる音・音楽の作成・編集	4.6	17.5	77.9	0.0	2.0	30.5	67.5	0.0	12.9	48.9	38.2	0.0
	・動画処理ソフトによる動画の作成・編集	6.5	19.4	74.2	0.0	3.1	34.0	62.9	0.0	16.0	52.6	31.4	0.0
情報の表現・発信・伝達	・Webページの制作(ユーザビリティ・アクセシビリティを含む)	35.1	32.7	32.2	0.0	17.0	54.0	29.0	0.0	26.3	58.6	15.1	0.0
	・電子メールによるコミュニケーション(マナーを含む)	39.4	44.0	16.6	0.0	49.2	44.7	6.1	0.0	31.9	62.5	5.5	0.0
	・文書表現(文書の適切な構成や読みやすい記述を含む)	37.4	44.9	17.7	0.0	37.4	55.8	6.8	0.0	28.7	62.2	9.2	0.0
	・プレゼンテーション(スライドの作成、適切な情報伝達を含む)	70.6	23.1	6.3	0.0	47.1	48.2	4.7	0.0	40.3	56.9	2.8	0.0
情報の科学的な理解・問題解決	・情報のデジタル表現の仕組み(文字、画像、音声、動画など)	36.5	45.8	17.6	0.0	16.6	63.7	19.6	0.1	25.5	61.7	12.8	0.0
	・ネットワークの仕組み(プロトコル、インターネットの構造など)	25.8	51.0	23.2	0.0	13.5	63.8	22.6	0.1	22.7	59.2	18.1	0.0
	・コンピュータの仕組みと動作原理	25.8	51.5	22.6	0.0	13.6	60.8	25.6	0.0	24.4	60.0	15.6	0.0
	・アルゴリズムとプログラミング	4.8	22.1	73.1	0.0	5.1	38.9	56.0	0.0	17.8	44.9	37.3	0.0
	・コンピュータによる計測・制御	2.2	12.6	85.2	0.0	2.3	29.7	68.0	0.0	9.3	35.6	55.1	0.0
	・モデル化とシミュレーション	3.1	18.2	78.8	0.0	4.3	35.8	59.8	0.0	9.5	42.3	48.2	0.0
	・問題解決(問題解決プロセス、問題の分析、KJ法など)	17.5	34.0	48.5	0.0	16.6	49.5	33.9	0.0	14.2	53.4	32.4	0.0
情報社会と情報に関わるモラル	・情報機器の発達・情報化が社会に及ぼす影響	54.8	38.5	6.8	0.0	49.3	45.9	4.8	0.0	26.9	65.9	7.2	0.0
	・社会で利用されている情報システム	39.2	49.0	11.8	0.0	34.9	55.9	9.2	0.0	24.0	64.7	11.3	0.0
	・他者の権利と法制度(著作権、肖像権、個人情報保護など)	74.5	23.5	2.1	0.0	76.1	23.0	0.9	0.0	30.2	64.8	5.0	0.1
	・情報社会におけるコミュニケーション(ルールやマナー)	75.3	22.6	2.1	0.0	77.3	22.0	0.7	0.0	31.8	64.2	4.0	0.1
	・情報社会における安全性(ネット犯罪、セキュリティを含む)	75.1	23.0	1.9	0.0	79.0	20.5	0.5	0.0	31.8	63.2	4.9	0.1

図表 II. 4. 2. 4-10 設問II-3.「授業実施」「重要度」「指導の自信」一覧（情報Bを教えている人）

◆情報B

		80%以上	60%以上	40%以上	(%)(n=241)								
		A. 授業実施				B. 重要度				C. 指導の自信			
		(1) 教えている。	(2) 一部教えている。	(3) 教えていない。	無回答	(1) 極めて重要と思う。	(2) 重要と思う。	(3) それ程重要とは思わない。	無回答	(1) 自信がある。	(2) 普通にやれる。	(3) 自信がない。	無回答
情報活用のための基本操作	・文字入力・タイピング	59.8	22.8	17.4	0.0	42.3	39.4	18.3	0.0	41.9	55.2	2.9	0.0
	・ブラウザによるインターネット上の情報検索	58.1	29.9	12.0	0.0	34.4	52.7	12.9	0.0	41.9	57.3	0.8	0.0
アプリケーションの基本操作	・ワープロソフトによる文書作成	72.2	15.8	12.0	0.0	44.0	46.1	10.0	0.0	51.5	48.1	0.4	0.0
	・表計算ソフトによる表の作成	82.2	14.5	3.3	0.0	51.0	43.6	5.4	0.0	55.2	44.4	0.4	0.0
	・データベースソフトによる情報検索	12.4	37.8	49.8	0.0	6.6	51.0	42.3	0.0	24.1	59.3	16.6	0.0
	・画像処理ソフトによる画像の作成・編集	18.3	46.1	35.7	0.0	7.5	40.7	51.9	0.0	24.9	62.7	12.4	0.0
	・音声処理ソフトによる音・音楽の作成・編集	4.1	19.5	76.3	0.0	2.5	26.1	71.4	0.0	16.6	49.8	33.6	0.0
	・動画処理ソフトによる動画の作成・編集	5.4	18.7	75.9	0.0	2.5	29.0	68.5	0.0	20.3	52.3	27.4	0.0
情報の表現・発信・伝達	・Webページの制作(ユーザビリティ・アクセシビリティを含む)	30.3	33.6	36.1	0.0	12.4	53.9	33.6	0.0	32.8	54.8	12.4	0.0
	・電子メールによるコミュニケーション(マナーを含む)	33.6	44.0	22.4	0.0	44.0	47.7	8.3	0.0	35.3	58.5	6.2	0.0
	・文書表現(文書の適切な構成や読みやすい記述を含む)	25.7	46.1	28.2	0.0	30.7	56.0	13.3	0.0	24.1	66.8	9.1	0.0
	・プレゼンテーション(スライドの作成、適切な情報伝達を含む)	58.9	26.6	14.5	0.0	43.2	48.1	8.7	0.0	37.8	60.2	2.1	0.0
情報の科学的な理解・問題解決	・情報のデジタル表現の仕組み(文字、画像、音声、動画など)	54.8	37.3	7.9	0.0	24.5	63.5	12.0	0.0	34.9	56.8	8.3	0.0
	・ネットワークの仕組み(プロトコル、インターネットの構造など)	38.6	46.1	15.4	0.0	14.9	66.0	19.1	0.0	26.1	61.0	12.9	0.0
	・コンピュータの仕組みと動作原理	37.8	48.5	13.7	0.0	19.1	59.8	21.2	0.0	28.2	62.2	9.5	0.0
	・アルゴリズムとプログラミング	32.4	38.6	29.0	0.0	18.3	48.5	33.2	0.0	29.5	52.3	18.3	0.0
	・コンピュータによる計測・制御	9.5	21.6	68.9	0.0	3.3	41.9	54.8	0.0	14.1	44.8	41.1	0.0
	・モデル化とシミュレーション	27.4	32.4	40.2	0.0	14.9	49.0	36.1	0.0	22.4	52.3	25.3	0.0
	・問題解決(問題解決プロセス、問題の分析、KJ法など)	19.9	39.8	40.2	0.0	19.9	52.3	27.8	0.0	17.8	58.1	24.1	0.0
情報社会と情報に関わるモラル	・情報機器の発達・情報化が社会に及ぼす影響	51.0	39.4	9.5	0.0	49.0	44.0	7.1	0.0	27.4	66.8	5.8	0.0
	・社会で利用されている情報システム	36.1	50.6	13.3	0.0	32.4	56.8	10.8	0.0	22.4	67.6	10.0	0.0
	・他者の権利と法制度(著作権、肖像権、個人情報保護など)	67.6	30.7	1.7	0.0	74.3	24.1	1.7	0.0	30.7	64.3	5.0	0.0
	・情報社会におけるコミュニケーション(ルールやマナー)	65.6	32.4	2.1	0.0	76.3	23.2	0.4	0.0	31.5	62.7	5.8	0.0
	・情報社会における安全性(ネット犯罪、セキュリティを含む)	66.4	30.3	3.3	0.0	77.2	21.6	1.2	0.0	31.5	63.1	5.4	0.0

図表 II. 4. 2. 4-11 設問II-3.「授業実施」「重要度」「指導の自信」一覧（情報Cを教えている人）

◆情報C

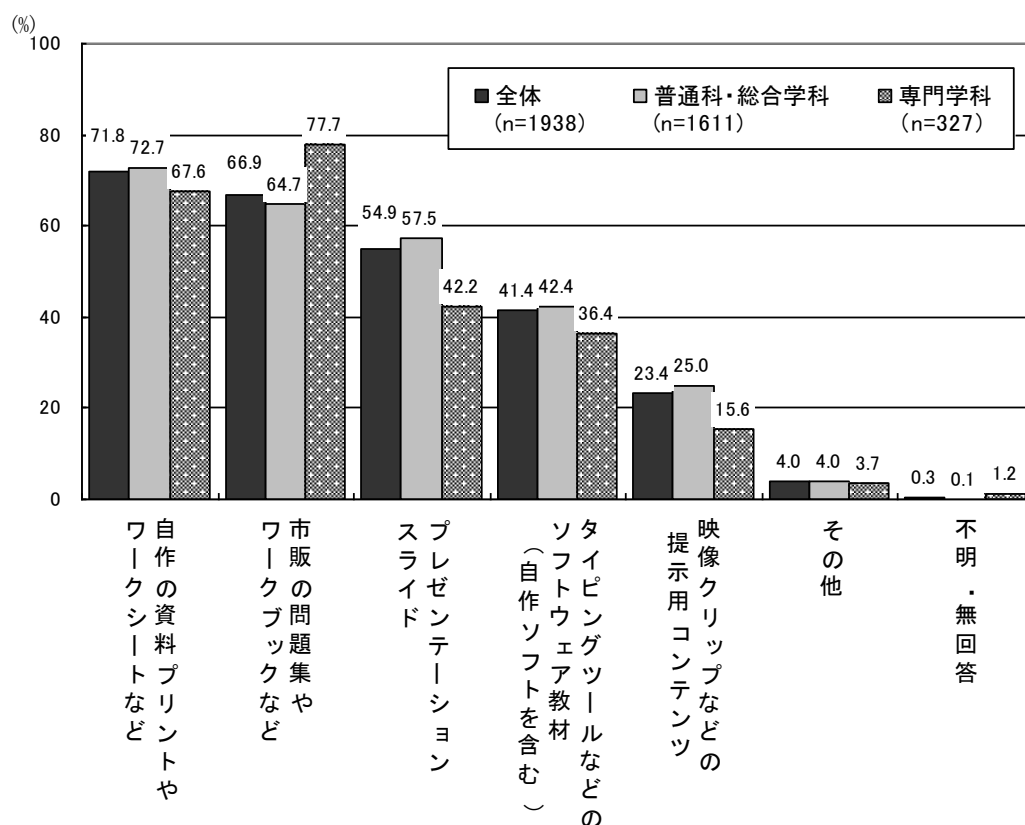
		80%以上	60%以上	40%以上	(%) (n=332)								
		A. 授業実施				B. 重要度				C. 指導の自信			
		(1) 教えている。	(2) 一部教えている。	(3) 教えていない。	無回答	(1) 極めて重要と思う。	(2) 重要と思う。	(3) それ程重要とは思わない。	無回答	(1) 自信がある。	(2) 普通にやれる。	(3) 自信がない。	無回答
情報活用のための基本操作	・文字入力・タイピング	65.7	22.6	11.7	0.0	42.8	44.0	13.3	0.0	44.0	54.5	1.5	0.0
	・ブラウザによるインターネット上の情報検索	67.2	28.6	4.2	0.0	45.2	46.7	8.1	0.0	45.2	54.5	0.3	0.0
アプリケーションの基本操作	・ワープロソフトによる文書作成	74.7	19.3	6.0	0.0	51.2	41.9	6.9	0.0	52.7	46.7	0.6	0.0
	・表計算ソフトによる表の作成	75.9	21.1	3.0	0.0	46.7	48.8	4.5	0.0	53.6	45.5	0.9	0.0
	・データベースソフトによる情報検索	7.2	28.6	64.2	0.0	6.9	45.2	47.9	0.0	26.5	57.2	16.3	0.0
	・画像処理ソフトによる画像の作成・編集	22.0	51.5	26.5	0.0	6.3	49.1	44.6	0.0	24.4	64.2	11.4	0.0
	・音声処理ソフトによる音・音楽の作成・編集	4.8	19.3	75.9	0.0	3.0	27.1	69.9	0.0	15.7	53.9	30.4	0.0
	・動画処理ソフトによる動画の作成・編集	9.3	20.8	69.9	0.0	3.6	32.8	63.6	0.0	19.6	58.4	22.0	0.0
情報の表現・発信・伝達	・Webページの制作(ユーザビリティ・アクセシビリティを含む)	42.8	35.8	21.4	0.0	17.8	53.9	28.3	0.0	31.0	61.1	7.8	0.0
	・電子メールによるコミュニケーション(マナーを含む)	46.1	36.4	17.5	0.0	56.9	37.3	5.7	0.0	36.1	60.2	3.6	0.0
	・文書表現(文書の適切な構成や読みやすい記述を含む)	37.3	45.8	16.9	0.0	41.6	50.0	8.4	0.0	30.7	62.7	6.6	0.0
	・プレゼンテーション(スライドの作成、適切な情報伝達を含む)	72.3	21.1	6.6	0.0	54.5	40.7	4.8	0.0	41.9	56.0	2.1	0.0
情報の科学的な理解・問題解決	・情報のデジタル表現の仕組み(文字、画像、音声、動画など)	50.0	38.0	12.0	0.0	22.6	61.7	15.7	0.0	36.1	57.2	6.6	0.0
	・ネットワークの仕組み(プロトコル、インターネットの構造など)	34.6	50.3	15.1	0.0	20.8	61.4	17.8	0.0	31.6	57.8	10.5	0.0
	・コンピュータの仕組みと動作原理	23.5	50.3	26.2	0.0	16.0	57.2	26.8	0.0	30.7	56.6	12.7	0.0
	・アルゴリズムとプログラミング	7.2	25.6	67.2	0.0	6.6	40.7	52.7	0.0	23.5	44.9	31.6	0.0
	・コンピュータによる計測・制御	0.9	11.7	87.3	0.0	2.1	33.4	64.5	0.0	11.4	37.0	51.5	0.0
	・モデル化とシミュレーション	3.3	21.7	75.0	0.0	4.8	41.6	53.6	0.0	13.3	47.3	39.5	0.0
	・問題解決(問題解決プロセス、問題の分析、KJ法など)	16.0	35.5	48.5	0.0	20.2	48.8	31.0	0.0	15.7	57.8	26.5	0.0
情報社会と情報に関わるモラル	・情報機器の発達・情報化が社会に及ぼす影響	61.4	33.4	5.1	0.0	55.4	41.0	3.6	0.0	30.4	64.5	5.1	0.0
	・社会で利用されている情報システム	42.8	47.0	10.2	0.0	38.9	53.0	8.1	0.0	27.7	65.4	6.9	0.0
	・他者の権利と法制度(著作権、肖像権、個人情報保護など)	78.6	18.7	2.7	0.0	78.3	20.5	1.2	0.0	33.1	65.1	1.8	0.0
	・情報社会におけるコミュニケーション(ルールやマナー)	77.1	20.2	2.7	0.0	81.3	17.5	1.2	0.0	33.1	63.9	3.0	0.0
	・情報社会における安全性(ネット犯罪、セキュリティを含む)	77.1	20.2	2.7	0.0	83.1	16.0	0.9	0.0	33.4	63.0	3.6	0.0

4.2.5. 使用教材について

「教科書以外の教材」の利用の有無を聞いたところ、「その他」を含む、いずれの選択肢も選択していない「不明・無回答」は、「全体」で 0.3%であり、ほとんどの回答者が「教科書以外の教材」を利用していると回答している。具体的な内容としては、全体では「自作の資料プリントやワークシートなど」が 71.8%と最も高く、次いで「市販の問題集やワークブックなど」が 66.9%と続く。

学科別では、「普通科・総合学科」では「自作の資料プリントやワークシートなど」が 72.7%と最も高く、次いで「市販の問題集やワークブックなど」が 64.7%となっている。一方、「専門学科」では利用率の順位は 1・2 位の順位が逆転し「市販の問題集やワークブックなど」が 77.7%と最も高く、「自作の資料プリントやワークシートなど」が 67.6%で 2 位となっている。また利用率で比較すると「市販の問題集やワークブックなど」以外の利用率が低くなっている。

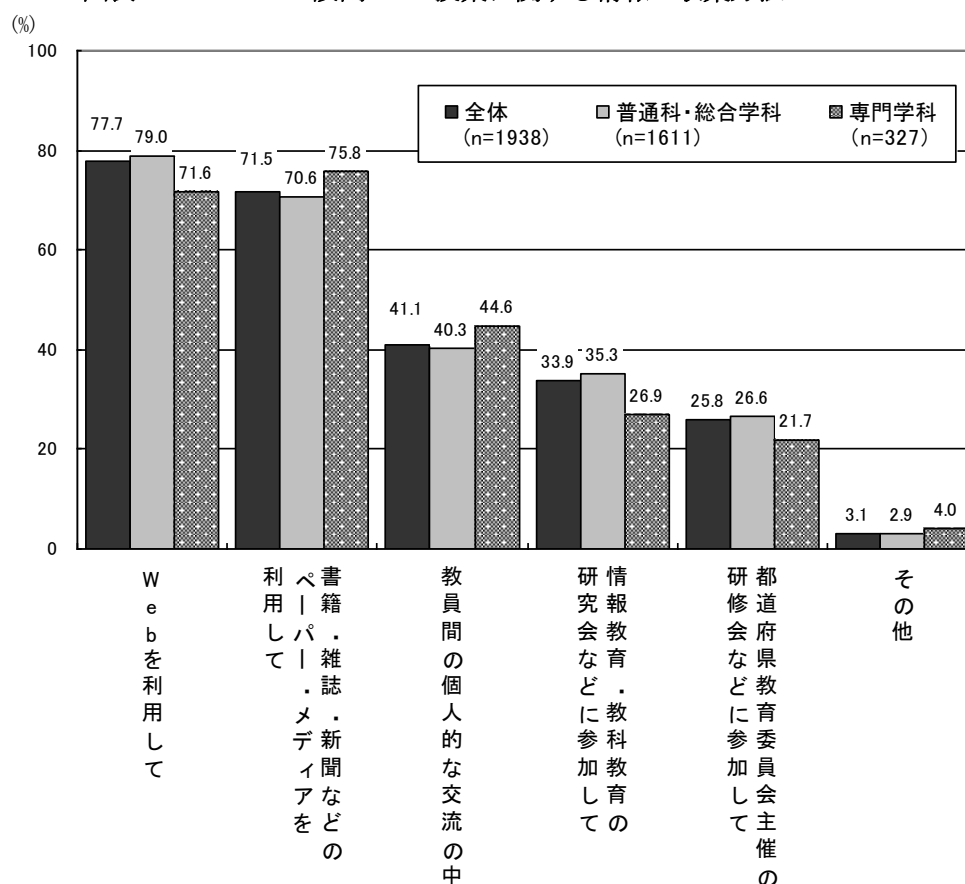
図表 II.4.2.5-1 設問Ⅱ-4. 教科書以外の教材の利用状況



4.2.6. 授業に利用する情報や教材の収集について

情報や教材などの収集方法では、全体では「Web を利用して」が 77.7%と最も高く、次いで「書籍・雑誌・新聞などのペーパー・メディアを利用して」が 71.5%と続く。学科別では「普通科・総合学科」は「Web を利用して」が 79.0%と最も高く、次いで「書籍・雑誌・新聞などのペーパー・メディアを利用して」の 70.6%が続く。「専門学科」では 1 位・2 位の順位が逆転し、「書籍・雑誌・新聞などのペーパー・メディアを利用して」が 75.8%と最も高く、次いで「Web を利用して」の 71.6%が続く。

図表 II.4.2.6-1 設問Ⅱ-5. 授業に関する情報の収集方法



4.2.7. 授業の留意点について

担当している教科「情報」の授業を充実・発展させるために、配慮すべきことを、自由記述形式で聞いたところ、パソコン台数の増大や、校内ネットワークの整備といった「環境の充実」以外に、「教員の質と数の充実」や「指導内容の吟味」などの回答が多く見られた。「教員の質と数の充実」「指導内容の吟味」については、他教科より情報化社会の変化の影響を受けやすい教科であるという認識の下、それに対応できる教員の質を維持し、対応できる指導内容を心がけることが重要である旨の回答が多い。その具体的な方法としては、教員の数を増やすだけでなく他教科よりも短期間に教員免許の更新を行うことや、研修の義務付け、校内のIT環境を専門業者にアウトソーシングし、教科「情報」に専念できる環境を作ることなどが挙げられた。

4.2.8. 大学入試に関する考え方

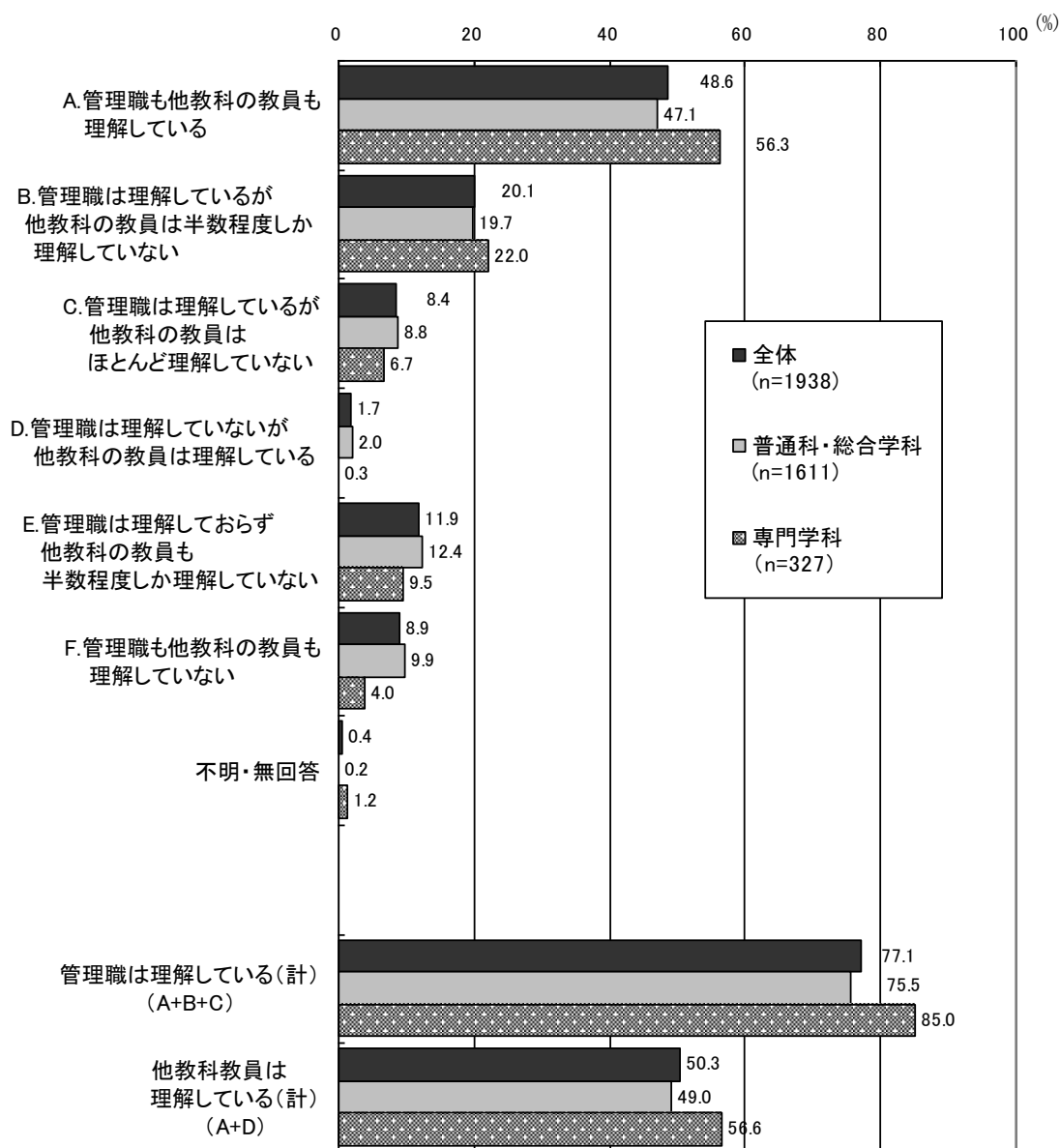
教科「情報」の担当教員として、大学入試科目における教科「情報」の現状について自由記述形式で質問したところ、「入試科目として積極的にとりいれるべき」という意見と、「取り入れるべきではない」という消極的な意見の両方が見られた。どちらの意見をもつものも教科「情報」の授業を重視していることに変わりはない。前者は、「重要がゆえに科目として取り入れるべき」という立場で、後者は、重要がゆえにテスト向けの授業になると教科「情報」として重要なことが十分に教えられなくなることを懸念する立場である。また「大学入試センター試験のようなテスト形式では適切な評価ができない」「AO入試のような形式が望ましい」といった回答も見られた。

4.2.9. 周囲の理解について

全体では「管理職も他教科の教員も理解している」が48.6%と最も高い。次いで20ポイント以上低く「管理職は理解しているが他教科の教員は半数程度しか理解していない」「管理職は理解しておらず他教科の教員も半数程度しか理解していない」と続く。

学科別で見ると、「普通科・総合学科」「専門学科」とともに、「管理職も他教科の教員も理解している」が最も高いのは変わらないが、「専門学科」の方が9ポイント高い。「管理職は理解している」の回答を合計した「管理職理解 計」と、「他教科教員は理解している」の回答を合計した「他教科教員理解 計」でみると、全体で77.1%の教員が、管理職は教科「情報」について理解していると認識しており、50.3%が他教科の教員は理解している（半数は理解していない）と認識していることになる。学科別で見ると「普通科・総合学科」より「専門学科」の方が管理職・他教科教員の理解が高いと認識しているとの結果となった。

図表 II.4.2.9-1 設問II-8. 教科「情報」に対する周囲の理解



また教科「情報」に対する周囲の理解を得るために行っている工夫として、主な回答としては教科「情報」の授業内容が他教科と関連すること、情報科以外の授業でのパソコン利用を提案したり、生徒の作品や実習の成果を他教員に公開・発表したりして、教科の重要性をアピールするといった回答が多く見られた。その他、パソコンの操作スキルの低い教員に対してセキュリティ対策やアップデート対策などを啓発するといった回答も見られる。一方で、教科「情報」の授業が、コンピュータの操作スキルを教える授業ではなく、また「教科としての「情報」と、校内のIT環境の充実がイコールでないことを強く主張し続ける」といった回答も見られた。

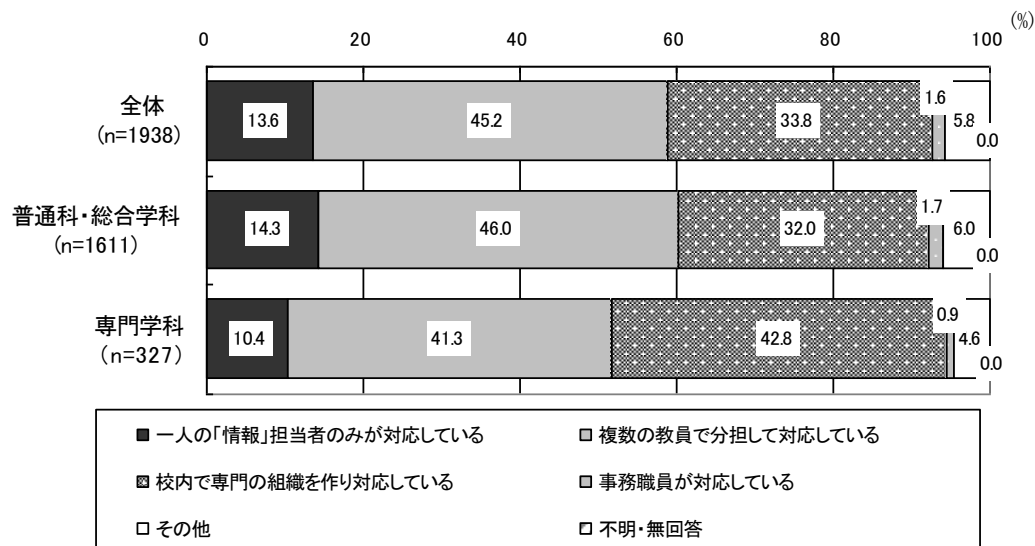
4.3. 学校の情報化について、その他

「Ⅲ. 学校の情報化について」では、「『情報』の授業」や「『情報』担当の教員」を取り巻く環境として、日々の校務や、研修会などの参加状況と希望内容などを質問している。

4.3.1. 勤務校の情報機器・ネットワーク管理や他の教員からの相談などへの対応

「勤務校の情報機器・ネットワーク管理や他の教員からの相談などへの対応」について、全体では、「複数の教員で分担して対応している」が45.2%と最も高く、次いで「校内で専門の組織を作り対応している」が33.8%と続く。一人の「情報」担当教員に機器の管理・対応を全て委ねるということはないが、「情報」の担当教員であるために、学校の情報化についても担当を任されてしまうことが推測される。

図表 Ⅱ. 4.3.1-1 設問Ⅲ-1. 学校内の情報機器の管理と他教員への対応



4.3.2. 情報教育研修会について

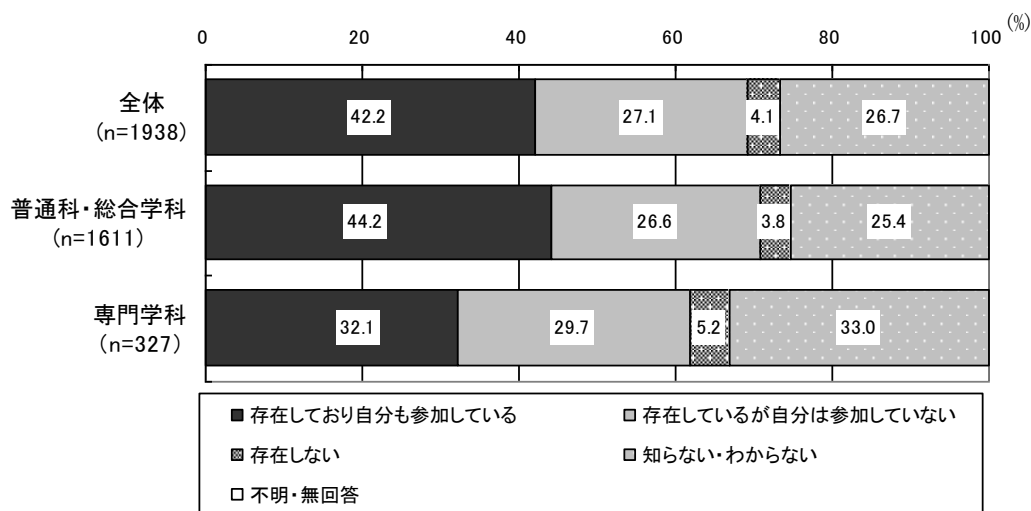
勤務校の所属する都道府県において行われている「情報教育研究会」について、参加状況や意識をきいたところ、全体では「存在しており自分も参加している」が42.2%と最も高く、次いで「知らない・わからない」が26.7%、「存在しているが自分は参加していない」が26.7%と続く。

学科別で見ると「普通科・総合学科」では「存在しており自分も参加している」が44.2%と最も高いのは変わらない。「専門学科」では「知らない・わからない」が33.0%と最も高くなり、「存在

しており自分も参加している」は32.1%であった。

「存在しているが自分は参加していない」について、具体的な理由については、「校務などで多忙」「出張の制限がある」「兼務であり別教科を優先している」といった回答が比較的多く見られた。

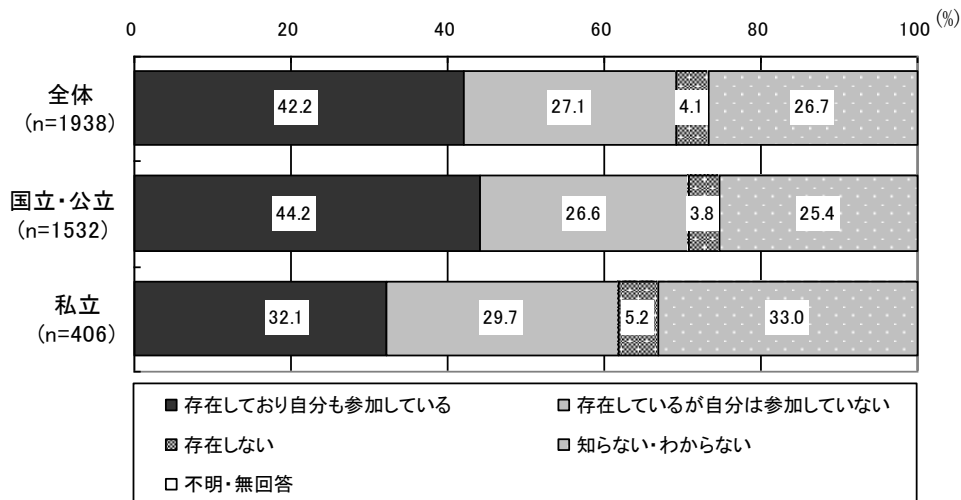
図表 II. 4. 3. 2-1 設問Ⅲ-3. イベントへの参加状況



ワークショップでは、「国立・公立」の学校の教科「情報」の教員と、「私立」の教員との間で情報の交流の不足を指摘する意見が聞かれた。設問Ⅰ-1で回答された勤務校の学校区分を基に回答者を「国立・公立（学校教員）」「私立（学校教員）」に分類し比較した。

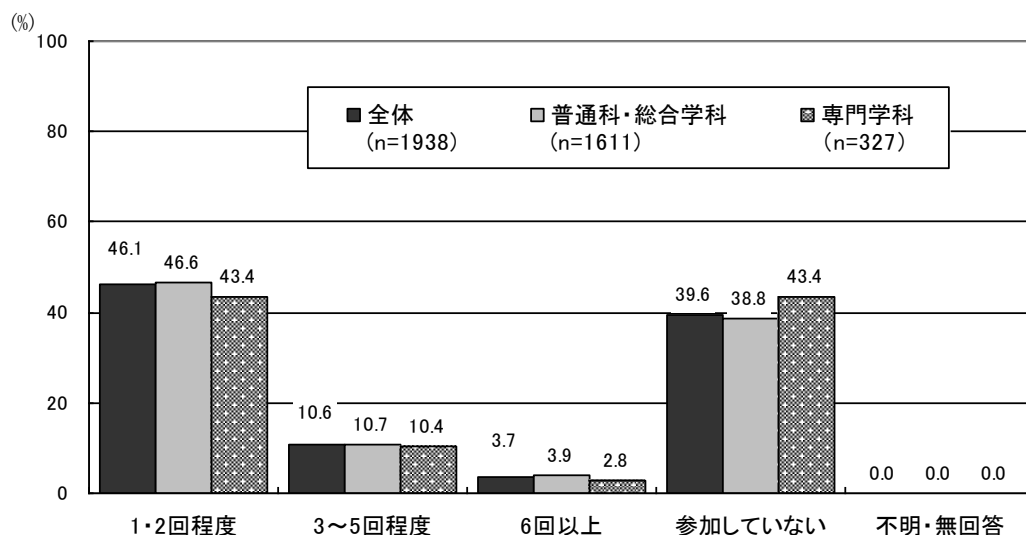
結果、「国立・公立」では「存在しており自分も参加している」が44.2%と最も高く、次いで「存在しているが自分は参加していない」が26.6%、「知らない・わからない」が25.4%であるのに対し、「私立」では、「知らない・わからない」が33.0%で最も高くなり「国立・公立」よりもその割合が高い。また「存在しており自分も参加している」は「国立・公立」よりも10ポイント以上低い。ワークショップで意見として聞かれた「公立・私立の教員の交流不足」を改善するひとつの方法として、国公立の教員とともに、私立高校の教員への参加呼びかけも積極的に行う必要がある。

図表 II. 4. 3. 2-2 設問Ⅲ-2. 情報教育研究会の認知と参加状況（学校区分別）



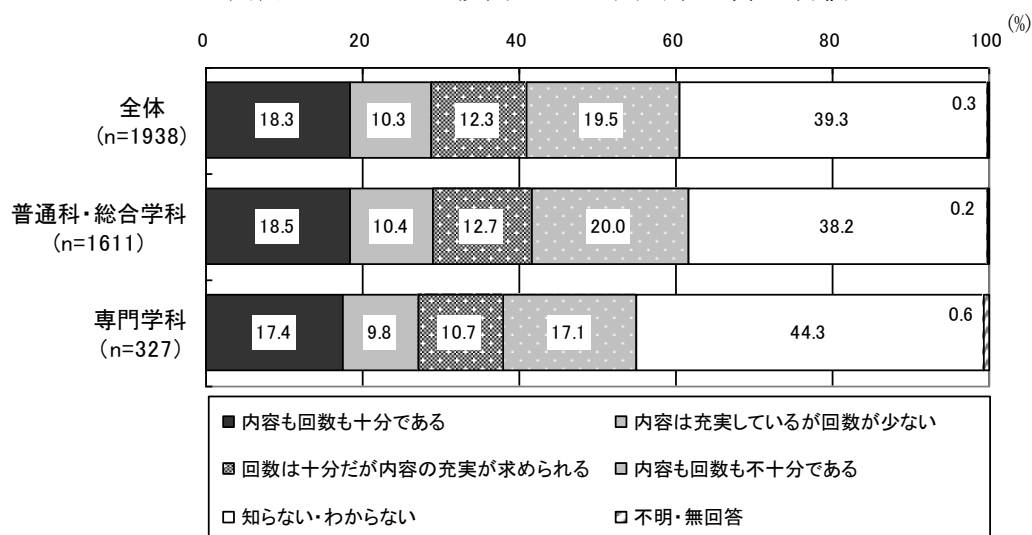
「情報教育研究会」を含む、セミナー、研修会など、教科「情報」に関連する学校外のイベントに年間どの程度参加しているかについては、「全体」では「1・2回程度」が46.1%と最も高い。次いで「参加していない」は39.6%であった。学科別で見ても大きな差はない。ほとんどの教員が参加するにしても1・2回の参加であることがわかる。

図表 II. 4. 3. 2-3 設問Ⅲ-3. イベントへの参加状況



「勤務校を所管する教育委員会が実施する『情報』担当教員対象の研修会」の評価については、全体では「知らない・わからない」が39.3%で最も高い。学科別でも「知らない・わからない」が最も高いことには変わりはないが、「普通科・総合学科」よりも、「専門学科」の方が「知らない・わからない」のスコアが高い。

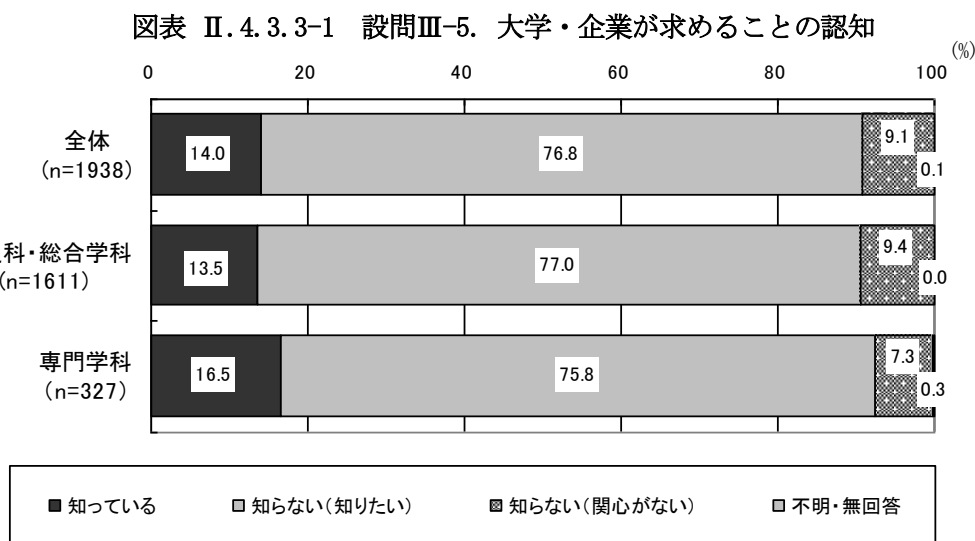
図表 II. 4. 3. 2-4 設問Ⅲ-4. 研修会に対する評価



今後、受けたいと考えている研修を自由記述で聞いたところ、主な回答としては、授業や校務に使用するアプリケーションの操作のほかに、他教員の指導方法の共有や、学習内容で重視度が高い「情報社会と情報に関わるモラル」に関する研修を望む回答が比較的多く見られた。

4.3.3. 大学や企業からの希望の認知

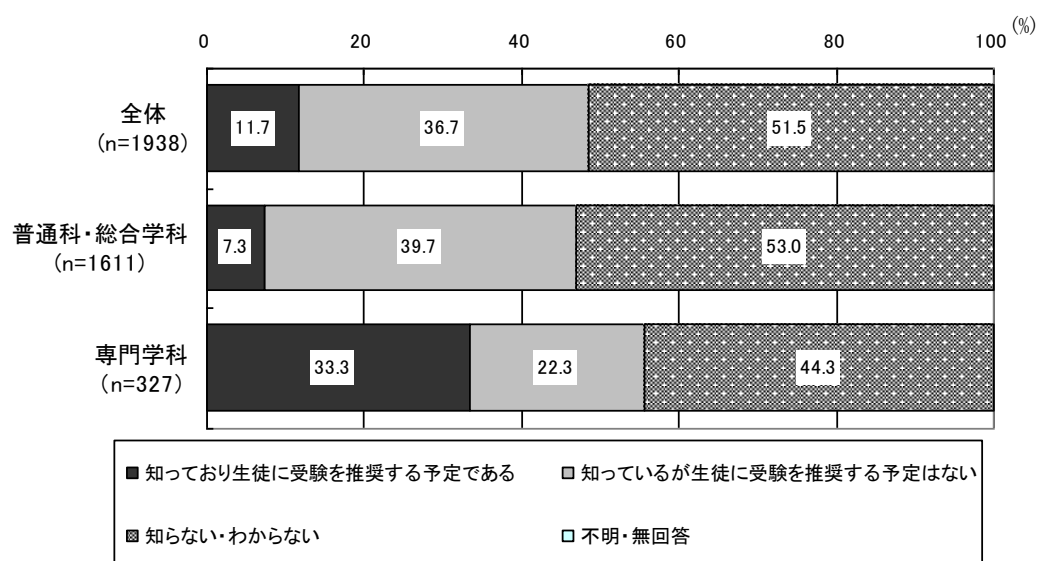
高等学校卒業後の進路である大学や企業が、高等学校などの教科「情報」でどのようなことを教えてほしいと知っているかを聞いたところ、全体では「知らない（知りたい）」が最も高く 76.8%であった。「知っている」は 14.0%。学科別で見ると「普通科・総合学科」「専門学科」で大きな差がなく、わずかに「専門学科」の方が「知っている」が高く、「知らない（知りたい）」「知らない（関心がない）」が低い。ただし、「専門学科」での「知っている」も 20%を下回っており、およそ 75%が「知りたい」と考えていることが明らかとなった。



4.3.4. IT パスポート試験の認知と受験の推奨意向

情報処理技術者試験のレベル 1 の試験として、2009 年度に創設される「IT パスポート」について、回答者の認知と（生徒への）受験推奨意向について、全体では「知らない・わからない」が 50%を超える。学科別で見ても、「普通科・総合学科」で 53.0%、「専門学科」で 44.3%と「知らない・わからない」が最も高いことは同じであるが、「専門学科」の方が 8.7 ポイントと低く、一方で「知っており生徒に受験を推奨する予定である」が 26 ポイント高い。IT パスポート試験は、職業人向けの情報技術社会基礎知識を測る試験であるため、「専門学科」での推奨意向が高いと思われる。特に専門学科では、質問 II-3 の「その他」の項目の中で、現在実施している、若しくは重視している資格として「パソコン検定」「日本語ワープロ検定」「ワープロ実務検定」「情報技術検定」「情報処理検定」など多数の試験名が挙がっており、検定試験の受験推奨意向の高さと一致する。

図表 II.4.3.4-1 設問Ⅲ-6. 「ITパスポート試験」の認知と受験推奨意向



4.3.5. その他意見

教科「情報」に対する意見、現場で困っていることを自由記述形式で聞いたところ、授業内容や指導法に関する困ったこととして、生徒間のアプリケーションの操作スキルにばらつきが大きいことや、教科「情報」として達成目標が不明確であること、教える内容が多すぎるなどが挙げられている。特に、学習内容として重要性が高いと意識されているものの比較的自信がないと回答されている「情報モラル」については、どのように指導すればよいか悩んでいるとの回答も多く見られた。

その他には、インターネット環境の整備が十分でないことや、パソコン台数の不足などから授業を行う環境が十分でない旨の回答や、校内の情報に関する校務の負荷の高さをのべた回答が多く見られた。